

平成19年度（第51回）
岩手県教育研究発表会資料

国 語

**中学校国語科における基礎的・基本的な内容の
確実な定着を図るための指導に関する研究**
- Gアップシートの
診断的な評価シートとしての活用をとおして -

研究協力校
花巻市立宮野目中学校

岩手県立総合教育センター
教科領域教育室
羽 柴 ル ミ

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の年次計画	1
今年度の研究内容与方法	2
1 目標	2
2 研究内容与方法	2
3 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する研究についての基本的な考え方	2
(1) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向	2
(2) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方策	2
(3) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本構想図	4
2 Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案	5
(1) 指導内容の重点化	5
(2) 指導過程で予測される生徒個々のつまずきへの対処	5
(3) 定着状況の確認	6
3 Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案に基づいた授業実践計画と検証計画	6
4 Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案に基づいた授業実践の結果及び分析と考察	7
(1) 診断Gの評価結果を生かした授業実践 1	7
(2) Gアップシートの編集による活用と「学びの手引き」の改善に関する授業実践 2	16
5 診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項	24
(1) 診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項を明らかにするための授業実践	25
(2) 診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項	27
6 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する研究全体の考察	28
研究のまとめ	29
1 研究の成果	29
2 今後の課題	30

〔おわりに〕

【引用文献】

【参考文献】

研究目的

評価に基づいた指導の充実を図り、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るためには、単元及び単位時間毎の目標を明確にし、指導に生きる評価を行う必要がある。そのためには、これから開始する指導に関する学習上の課題を客観的に把握した上で授業を構想しなければならない。単元毎に評価規準を設定し、単位時間の具体の評価規準を明らかにすることが重要であり、診断的な評価問題の活用により指導内容の重点化を図るとともに、個に応じた指導の手だてを準備して授業に臨むことが大切である。

しかし、国語科においては、教科書の学習材についての学習到達目標は示してはいるものの、それが国語科としてどのような力の定着を目指すものであるか生徒に具体的な形として理解させることは難しい。そのために、「国語は何ができればよいのか分からない。」「国語は何をどう勉強すればよいのか分からない。」という生徒の声を聞くことが多い。これは、教師が教科書の学習材を教えることだけに意識が集中し、評価規準に基づく学習到達目標について、どのような力を身に付けるための学習であり、何ができればよいのかを生徒に示していないこと、学習を進める上での個々の課題を十分に把握しないまま授業をしているために授業時間内に適切な指導がなされないことが原因であると思われる。

このような状況を改善するためには、これからどんな力を付けるための学習が始まり、何ができればよいのか生徒自身に具体的なイメージをもたせること、評価規準に基づく評価問題で構成したGアップシートを診断的な評価シートとして活用することにより、重点とする指導を定めて実際の授業場面で想定される個々のつまずきに対処できる授業を構想し、指導の改善に役立てることが必要である。

そこで、本研究は、中学校国語科において、Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することをおして、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導について明らかにするものである。

研究仮説

中学校国語科において、Gアップシートを診断的な評価シートとして活用し、次のような手順で個々のつまずきに対処できる授業を行えば、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることができるであろう。

- 1 指導内容を重点化する
- 2 既習事項の定着状況を生徒自身に確認させる
- 3 診断的な評価結果を生かした指導の手だてを準備する

研究の年次計画

本研究は、平成18年度から19年度にわたる2年次研究である。

第1年次（平成18年度）

中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方の検討及び基本構想を立案し、指導試案の作成、指導計画の作成、指導計画に基づく指導実践をおして改善点を明らかにする。

第2年次（平成19年度）

第1年次に明らかにしたGアップシートの活用の診断的な評価シートとしての活用について、

改善点を基に指導実践を行い，その有効性についてまとめる。

今年度の研究内容与方法

1 目標

第1年次に明らかになった改善点に基づいて授業実践計画と検証計画を立案する。そして計画に基づいた授業実践を行い，その分析と考察をとおして基礎的・基本的な内容の定着状況を検証し，中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する研究のまとめを行う。

2 研究内容与方法

- (1) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用についての授業実践計画と検証計画の立案（授業実践）
- (2) 実践結果の分析と考察（授業実践・調査法）
- (3) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する研究のまとめ

3 研究協力校

花巻市立宮野目中学校

研究結果の分析と考察

1 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導についての基本的な考え方

中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導についての基本的な考え方は第1年次で示していることから，本節では，基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向とその方策について概要を述べる。

(1) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向

中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向を次の四点とする。これは本県が平成17年度に実施した学習定着度状況調査の結果の分析及び考察に基づいて整理したものである。

- ・単元及び単位時間毎の目標を明確にすること
- ・単元の評価規準及び単位時間毎の具体的評価規準を明確にすること
- ・既習事項の定着状況を把握するために診断的な評価を実施し，生徒にも確認させること
- ・診断的な評価結果を生かした指導計画を立案し，指導内容の重点化と個々のつまずきに対処するための具体的な指導の手だてを準備すること

(2) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方策

本研究の指導改善の方策として，いわてスタンダードに対応したGアップシートを診断的な評価シートとして活用することを検討する。以下に，いわてスタンダード及びGアップシートの特徴，Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することの意義について整理する。

ア いわてスタンダード及びGアップシートの特徴

いわてスタンダード及びGアップシートは，当センタープロジェクト班(2006)が作成した。いわてスタンダードとは，学習指導要領及び国立教育政策研究所作成の評価規準を基に，本県の生徒の実態をふまえて，生徒に身に付けさせたい中核となる力を明確に示したものである。

中核となる力とは、具体的な指導レベルで明示した生徒に身に付けさせたい力のことである。

Gアップシートとは、本県の学力向上に資するよう内容を検討した評価規準いわてスタンダードに示した「中核となる力」に対応して作成した評価問題で構成した学習シートのことであり、次のような特徴がある。三領域一事項の身に付けさせたい力に対応した問題を出題している、初見の内容の問題を出題している、論理的な思考力を養うような問題を出題している、無解答への対応として記述式の問題を出題している。

イ Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することの意義

本研究における診断的な評価シートとは、これから指導を開始する単元に関連する既習事項の定着状況について学級全体の傾向及び生徒個々の学習上の課題を把握することにより指導内容の重点化を図るためのものである。Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することの意義は次の四点である。

- ・単元の学習に関連する既習事項の定着状況について、生徒自身に確認させることができること
- ・初見の内容の問題を出題しているため、既習事項の定着状況について客観的な評価結果が得られること
- ・評価結果に基づいて指導内容を重点化した指導計画を立案できること
- ・指導過程でのつまずきを予測し、それに対処するための具体的な指導の手だてを準備して授業に臨むことができること

診断的な評価のとりえは、学習者の配置（学習のコース分けや習熟度別編成）、学習指導の計画、補充指導に役立てるというBloomの論に基づいた。国語科における診断的な評価については、「これからの指導を有効適切なものにするために子どもの実態を把握しようとするもの」尾木（2001）であるととらえた。単元の指導計画の立案のための診断的な評価の実施方法については高木（1981）を参考にした。

Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用（以下診断Gと表記）に関する配慮事項を以下に示す。

単元の目標を設定し、その目標を実現するために必要な指導事項を明確にする。

既習事項を確認し診断Gを実施する。診断Gの内容や実施時間が生徒の負担とならないよう配慮が必要である。シートの各問いに中核となる力を示す項目が示されているため、評価しようとする内容に合わせて問題を選択して実施することもできる。前単元の学習終了時や朝学習等の時間を利用し、15分程度で終了することが望ましい。

採点は教師が行い、学級全体の学習定着状況と生徒個々の学習上の課題を把握する。

診断Gの評価結果に基づいてこれから開始する授業の中でのつまずきを予測し、個に応じた指導の手だてを準備して指導計画を立案する。

採点したシートを生徒に返却する。その際、できなかった問題について、どのようにすればできるようになるのか具体的なアドバイスをを行い、授業や家庭学習等で取り組ませる。

上記の診断Gの評価結果は、学習コースの編成や学習シートの工夫、学習上の課題に応じた個別指導に役立てることができる。ただし、このようにするためには、評価結果に応じた学習の進め方を示したものが必要である。そこで、「学びの手引き」を作成して活用することにした。次頁【資料1】が「学びの手引き」である。「学びの手引き」とは、いわてスタンダードの中核となる力について、生徒が理解した上で学習を進めることができるように授業で活用させるものである。

「学びの手引き」は、学習目標、学習成果の確認、（学習上の課題の）解決の方法、診断テスト（診断G）の結果、単位時間の学習のめあて、で構成されており、次のような特徴がある。

- ・単元の学習でどのような力が身に付くのか生徒に理解させることできる

- ・この学習では何ができればよいのか、具体的な到達の姿を生徒に示すことができる
- ・この単元の学習で特に重要となる既習事項の定着状況を生徒に確認させることができる
- ・既習事項の定着が不十分な場合の学習の進め方について、授業の中でどのように学習すればできるようになるか生徒が分かるように示すことができる
- ・単元の学習計画と単位時間ごとの学習のめあてが示しており、生徒に毎時間の学習の振り返りをさせることができる

(3) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導についての基本構想図

これまでの基本構想を基に、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本構想図を【図1】のように作成した。



【図1】 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導についての基本構想図

【資料1】「学びの手引き」の例（第1学年「体験を伝え合おう」）

観点	学習目標	学習成果の確認	解決の方法	診断テストの結果
問題意識	必要な材料を削いで自分の体験について話し、裏面で表現を工夫しようとする	①自分の体験から必要な材料を削いで、自分の思いを話し、裏面で表現を工夫しようとした		
書く力	自分の体験を削いで相手に伝わるように削いで伝えるために必要な材料を選ぶ Bイ(1) Bウ(2) Bエ(4) Bオ	①削いだことを選んだか決めることができた Bイ(1) ②削いだ内容について材料を選んだことができた Bイ(2) ③削いだ内容で伝えるために必要な材料を選んだことができた Bウ(1) ④交流会を通して材料の集め方や表現の工夫について参考することができた Bオ(1) ⑤段落の役割や文の接続の仕方について材料を集めたり選んだりして、文章を書くことができた Bエ(4)	□どう思うか、なぜそう思うか、例えばどんなときにそう思うかを考えてみよう □削いだ内容についてわからない人は、教科書p.188を読もう □削いだ内容についてわからない人は、教科書p.188を読もう □削いだ内容についてわからない人は、教科書p.188を読もう □削いだ内容についてわからない人は、教科書p.188を読もう	【診断G書1-1】 □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた Bア(3)
言語の力	段落の役割を考え、思いが伝わる文章にする Bイ(1) Bウ(2) Bエ(4) Bオ	①段落の役割を考えて、書き出しや結び、会話などを工夫することができた	□段落の役割については教科書p.188にあり、裏面の例文について、事例と見比べて読んでみよう Bエ(2) □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた Bエ(2) □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた Bエ(2) □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた Bエ(2)	【診断G書1-1】 □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた □削いだ内容について、自分の思いを伝えることができた Bエ(2) Bエ(2) Bエ(2) Bエ(2)

2 Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案

診断Gの活用を位置付けた指導試案を【図2】に示す。単元の指導は、指導計画の立案、指導過程で予測される生徒個々のつまずきへの対処、定着状況の確認の流れ、に沿って以下のように実施する。

(1) 指導計画の立案

指導計画を立案するために診断Gを実施する。診断Gの評価結果を基に既習事項の定着状況について学級全体の傾向と生徒個々の学習上の課題を把握することにより、指導内容を重点化する。指導内容の重点化とは、指導過程で予測される生徒個々のつまずきに対処するために重点となる指導事項を精選して手だてを講ずることである。前述の「学びの手引き」は指導計画を立案する際に作成する。

(2) 指導過程で予測される生徒個々のつまずきへの対処

指導過程で予測される生徒個々のつまずきに対処するために、単元の目標と診断Gの評価結果を確認させるための「学びの手引き」の活用と診断Gの評価結果を生かした指導を以下のように行う。

ア 「学びの手引き」の活用

単元の導入時に「学びの手引き」を活用し、診断Gの評価結果を基に既習事項の定着状況を生徒自身に確認させる。既習事項を確認させることにより、学習上の課題に応じた学び方と単元の目標及び到達の姿を示すことで、生徒に学習の見通しをもたせる。「学びの手引き」は、単位時間の導入と終末に活用させる。

教師は、「学びの手引き」を毎時間回収し、その記入内容により単位時間毎の学習目標の到達状況を確認する。

イ 診断Gの評価結果を生かした指導

診断Gの評価結果を生かした指導とは、「学習コースの編成」、「学習シートの工夫」、「個別指導」であり、単元の指導内容に応じて行う。

は診断Gの評価結果を基に既習事項の定着状況を生徒自身に確認させたのち、個々の課題に応じてコースを選択させて学習活動に取り組ませるものである。は学習シートでの学び方の提示を工夫することである。学習シートに提示する学び方とは、診断Gの評価結果から予測されるつまずきに対処する内容であり、「学びの手引き」の課題解決の方法を学習過程に沿って具体的に示すことができるように構成する。は診



【図2】 Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案

断Gの評価結果からつまづきを予測した生徒及び単位時間毎の評価結果から個別指導を要すると判断される生徒に対する指導であり、「おたすけカード」(ヒントカードのこと)の活用と意図的な机間指導を行う。

(3) 定着状況の確認

単元の終了時に、指導内容の定着状況を確認するためのシート(以下確認Gと表記)に取り組ませる。確認Gは、診断Gで評価した既習の中核となる力と単元で指導した中核となる力を評価する問題で構成したものであり、教師が指導内容に合わせGアップシートを編集して活用する。確認Gの評価結果は生徒が「学びの手引き」に記入する。確認Gの評価結果を生徒に記入させて単元の目標の到達状況について生徒自身に確認させることがねらいである。

3 Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案に基づいた授業実践計画と検証計画

授業実践及び検証は、指導計画の作成、授業実践、分析と考察の手順で行う。では診断Gの評価結果を基に指導内容の重点化した指導計画の立案と指導の手だての準備を行う。では単元の指導計画を基に「学びの手引き」の活用と、診断Gの評価結果を生かした指導を位置付けた授業実践を行う。実践内容は【表1】に示すとおりである。では【表2】に示した検証計画を基に、Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた授業実践をとおして、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導の手だての有効性を確認するために授業実践結果の分析と考察を行う。

【表1】授業実践の内容

	授業実践1	授業実践2
領域	書くこと	話すこと・聞くこと
学年	第1学年	第3学年
期間	2月8日～2月16日	7月4日～7月19日
時数	6時間	6時間
単元名 「教材名」 (光村図書平成18 年度版中学校国語)	6 自分をみつめる 「体験を伝え合おう」	話す・聞く 「相手を意識して伝えよう - わかりやすく話す」

【表2】検証計画

検証項目	検証内容	対象	検証方法	処理・解釈の方法
基礎的・基本的な 内容の定着状況	Gアップシートの診断 的な評価シートとして の活用の有効性	生徒	観察法(発言・行動の様 子やノート・「学びの手 引き」・学習シートへの 記述・確認テスト)	授業中の観察や抽出 生徒が記述したものを 分析・考察する

4 Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案に基づいた授業実践の結果及び分析と考察

Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案に基づく二つの授業実践の結果は次のとおりである。

授業実践1では、診断Gの評価結果を指導に生かすことの有効性を検証した。その結果、つまずきが予測される生徒への指導の手だてとして、診断Gの評価結果を基に作成した学習シートの活用と「おたすけカード」を活用した個別指導の効果を確認した。しかし、診断Gの活用について次の課題が残った。Gアップシートの内容や構成上どの時点でもつまずく可能性があるか段階的な診断ができないシートがあること、単元の目標と診断Gの評価結果との関連を生徒に十分に理解させるために「学びの手引き」の改善が必要なことであった。これらの課題については授業実践2において、Gアップシートの内容や構成を編集して活用することと「学びの手引き」に診断Gの判断基準を具体的に示すことにより改善を試みることにした。

授業実践2では、Gアップシートを編集して活用すること、「学びの手引き」の改善による指導の効果について検証した。その結果、段階的な診断をするためにGアップシートを編集して活用することにより、生徒のつまずきを細やかに予測する効果があることを確認した。「学びの手引き」の改善については、診断Gの判断基準を示したことで単元の目標との関連を生徒に十分に理解させる効果があることを確認した。

以上のことから、Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用が、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために有効であることが明らかになった。本節では授業実践1と授業実践2のそれぞれの概要及び分析と考察をまとめる。

(1) 診断Gの評価結果を生かした授業実践1

診断Gの評価結果を生かした授業実践1では、つまずきが予測される生徒への指導の手だてとして診断Gの評価結果を指導に生かすことの有効性を確認した。しかし、課題としてGアップシートの内容や構成上どの時点でもつまずく可能性があるか段階的な診断ができないシートがあること、単元の目標と診断Gの評価結果との関連を生徒に十分に理解させるためにさらに工夫が必要なことが明らかになった。以下は授業実践の概要及び分析と考察である。

ア 授業実践1の概要

本授業実践の内容は、自分の体験を基に学級の生徒にアドバイスをする内容の文章を書かせる学習をとおして自分の思いを伝えるために必要な材料を選ぶ指導をするものであり、花巻市立宮野目中学校第1学年1学級(29名)を対象として実施した(単元及び単位時間の指導計画、診断G、学習シート、確認Gは補充資料1頁～15頁)。

授業を開始するための手順として 診断Gの実施、指導内容を重点化した指導計画の立案、診断Gの評価結果を生かした指導の手だての準備、に沿って概要を述べる。

(ア) 診断Gの実施

指導内容を重点化した指導計画を立案するために診断Gを実施した。この診断Gは、いわてスタンダードの中核となる力Bア 2「課題を基に、書くための材料を集めることができる」、Bイ 1「伝えたい事柄、話題、自分の気持ちを整理することができる」、Bエ 4「文や段落の長さ、文や段落の接続の関係、全体と部分との関係などを整えることができる」に対応している。これらを本単元の目標に到達するための既習の中核となる力ととらえ、この評価結果を基に指導内容の重点化を図った。

(イ) 指導内容を重点化した指導計画の立案

【表3】は、本実践における診断Gの評価結果について、不正解及び無解答の状況を示したものである。

まず、三つの既習事項Bア 2, Bイ 1, Bエ 4 について、学級全体の定着状況をみる。各評価結果とも未定着の生徒が学級全体の3割未満であることから、個別指導を重視した指導計画の立案が必要であると判断した。

次に、個別指導の具体的な内容について構想する。単位時間毎の指導事項により、その指導の前提となる既習事項が未定着であった生徒の単位時間毎のつまずきが予測される。このつまずきに対処するために、課題解決のための具体的な手だてと意図的な机間指導を位置付けた単元の指導計画及び単位時間毎の指導計画を立案した。

次頁【資料2 - 】は、指導計画の概要である。診断Gの評価結果を基に単位時間毎の生徒のつまずきの予測とそれに対処するための指導の手だてを準備することで指導内容を重点化した。

(ウ) 診断Gの評価結果を生かした指導の手だての準備

診断Gの評価結果を生かした指導の手だての準備として、初めに指導過程で生徒に活用させる「学びの手引き」を作成した。「学びの手引き」を活用させるねらいは、既習事項の定着状況の確認、課題の解決方法の確認、単元の学習目標の確認、単位時間毎の学習目標の確認と振り返り、単元の到達状況の確認、である。

次に、診断Gの評価結果を生かした指導の手だてとして、学習シートの作成、つまずきが予測される生徒への個別指導の具体的な準備（本授業実践では「おたすけカード」を作成して活用した。【資料2 - 】は第2時に希望者に配布した「おたすけカード1」）、個別指導を要する生徒への意図的な机間指導のための座席表の準備を行った。10頁【資料2 - 】がその概要である。

【資料2 - 】第2時で活用した「おたすけカード1」

例えば、こんな体験がありませんか？

★出事前からイメージしてみよう

- ・夏休みや冬休みの課題が予定通り進んで期日までに提出できたこと。
- ・部屋の片付けや掃除を一生懸命やって気持ち良かったこと。
- ・誰かから親切にしてもらってうれしかったこと。
- ・誰かの大切なものをこわしたり、なくしたりしてしまったこと。
- ・誰かに喜んでもらったこと

★考えたことからイメージしてみよう

- ・命の大切さを考えた体験。
- ・努力して良かったと思った体験。
- ・便利な生活だからこも困った体験。
- ・家族のありがたさを感じた体験。
- ・友達のありがたさを実感した体験。
- ・部活動から何かを学んだ体験。
- ・誰かの言葉に感動した体験。



「おたすけカード1」による個別指導の様子

【表3】診断Gの評価結果

座席番号	診断G書2			診断G書11
	問一	問二		問二
	材料を集める	伝えたい内容を整理する	自分の考え	全体と部分
	Bア(2)	段落構成	具体的な事実	Bイ(1)
1				Bエ(4)
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22		無	無	無
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				

(注) 1 診断Gは平成18年12月14日(木)に実施した。
 2 表中の は不正解を表す。
 3 表中の無は無解答を表す。
 4 本授業実践で活用したGアップシートの分類番号については、「中学校国語科Gアップシート」(岩手県教育委員会岩手県総合教育センター平成19年3月)とは作成過程での編集の都合上異なっている。
 5 本授業実践で活用したGアップシートは補充資料に示す。

【資料 2 - 】指導計画の概要

単元の指導計画表

指導過程	学習目標	単元で身に付けたい中核となる力	診断Gによる既習の中核となる力	授業でのつまずきを予測した生徒(数字は座席番号)	指導の手だて
指導前	診断Gを実施する		診断する既習の中核となる力 Bア〈2〉・Bイ〈1〉・Bエ〈4〉		
第1時	相手を決めて伝えたい内容を考える	Bイ(1)	G書2-1 Bア(2) 材料を集める力	2, 4, 6, 15, 22	学習シート 個別指導 ・机間指導
第2時	伝えるために必要な材料を集める	Bイ(1)	G書2-2 Bイ(1) 具体的な出来事を書く力 自分の考えを書く力	3, 4, 5, 6, 10, 11, 15, 20, 22, 23, 25, 26, 29	学習シート 個別指導 ・おたすけカード ・机間指導
第3時	構成を考えながら材料を選ぶ	Bウ(1) 言(1)エ(2)	G書2-2 Bイ(1) 具体的な出来事を書く 自分の考えを書く力 G書11-2 重(1)エ(2) 段落の役割を考えて表現する力	3, 4, 5, 6, 10, 11, 15, 20, 22, 23, 25, 26, 29 4, 13, 15, 18, 20, 22, 29	学習シート 個別指導 ・机間指導
第4時	表現を工夫して文章を書く ・選んだ材料で文章を書く ・書き出しや結びを工夫する	Bイ(1) 言(1)エ(2)	G書2-2 Bイ(1) 具体的な出来事を書く力 自分の考えを書く力 G書11-2 重(1)エ(2) 段落の役割を考えて表現する力	3, 4, 5, 6, 10, 11, 15, 20, 22, 23, 25, 26, 29 4, 13, 15, 18, 20, 22, 29	学習シート 個別指導 ・おたすけカード ・机間指導
第5時	表現を工夫して文章を書く ・構成や表現を見直しながら清書する	Bエ(4)			学習シート 個別指導 ・おたすけカード ・机間指導
第6時	体験を伝え合い互いの文章の良い点を参考にする	Bオ(1)			学習シート 個別指導 ・机間指導
指導後	確認Gを実施する		確認する中核となる力 Bア〈2〉・Bイ〈1〉・Bウ〈1〉・Bエ〈4〉		

意図的な机間指導のために活用する座席表の準備

指導計画第2時の場合

29	24	19	14	9	5
28	23	18	13	8	4
27	22	17	12	7	3
26	21	16	11	6	2
25	20	15	10		1

マーカー部分が診断Gによりつまずきを予測した生徒である。単位時間の評価結果と合わせて個別指導の必要の有無を判断し、予測したつまずきに対処するために「おたすけカード」などの具体的な手だてを準備して授業に臨む。前時の評価結果から、診断Gによる予測以外の生徒につまずきが確認された場合にも、つまずきの状況が同じであれば同様の手だてにより個別指導も行うことができる。

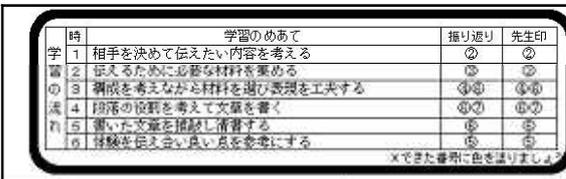
第2時の指導計画表

◆単位時間ごとの指導計画表◆ 2/6時間 単元六 題材名:「体験を伝え合おう」(中学校1年:光村国彦)

目標	国語への関心・意欲・態度		書く能力	言語についての知識・理解・技能	
伝えるために必要な材料を集める	身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、書き表そうとしたりしている		伝えたい事実や事柄、語句、自分の考えや気持を整理することができる Bイ(1)		
学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	評	診断Gを生かした指導 ※十分満足 ▲努力を要する	
導入 5分	1 本時の目標の確認 ・「学びの手引き」の活用 ・学習シート	・「学びの手引き」の活用 ・学習シートの活用	・「学びの手引き」の活用 ・学習シートの活用		
展開 35分	2 学習活動 ・伝えるために必要な材料を集める	・学習シート2にメッセージを効果的に伝えるために必要な材料を書き出す	・材料となる具体的な事実と自分の考えを付箋を用いて書き出す ・付箋は2色でそれぞれ大小2サイズ準備する ・付箋小は設置用、付箋大は書き出し、結び用とする ・黄色とピンクのうち、ピンクの方をチャレンジ用として活用することで机間指導の際の見取りに役立てる	次の内容について書き出すことができる ・体験の内容(いつ・どこで・誰が・何を) ・体験を通して考えたこと ・なぜそう考えたか	学習シート2 学習シートの工夫 ③比喩や引用、関連する話題を書き出させる 個別指導 ▲希望する生徒におたすけカードをりえて、どんな体験を伝えるか考えさせる つまずきが予測される生徒の座席
結 10分	3 学習状況の確認 4 次時の学習内容の確認	・「学びの手引き」で本時の学習の振り返りをする	・「学びの手引き」上表紙の振り返りをさせて提出させる ・学習シートを提出させる	本時の実施状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまずきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する	

(注) 単元の指導計画表と第2時の指導計画表の囲み部分は診断Gの評価結果を生かした指導の手だて

【資料 2 - 】単元の指導過程における手だての概要

	「学びの手引き」の活用	診断Gを生かした指導の手だて																																			
指導前		1 学習シートの作成 「学びの手引き」と次の点を対応させて学習シートを作成した。 ・単位時間毎の学習内容 ・学習成果の確認 ・学習上の課題解決の方法 ・発展的な学習への取組内容 2 指導の手だての準備 つまずきの予測に基づいて「おたすけカード」を作成した。																																			
導入	1 既習事項の定着状況の確認 診断G書2と書11の評価結果から、いわてスタンダードの中核となる力Bア2、Bア3、Bエ2の定着状況を確認させた。 2 課題の解決方法の確認 診断Gの評価結果を基に学習上の課題解決の方法を確認させた。 3 単元の学習目標の確認 いわてスタンダードの中核となる力Bイ、Bウ、Bエ、Bオが単元の学習目標であることを確認させた。																																				
展開	4 単位時間毎の学習目標の確認と振り返り <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>過程</th> <th>学習目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1時</td> <td>相手を決めて伝えたい内容を考える</td> </tr> <tr> <td>第2時</td> <td>伝えるために必要な情報を集める</td> </tr> <tr> <td>第3時</td> <td>構成を考えながら材料を選び表現を工夫する</td> </tr> <tr> <td>第4時</td> <td>段落の役割を考えて文章を書く</td> </tr> <tr> <td>第5時</td> <td>書いた文章を推敲し清書する</td> </tr> <tr> <td>第6時</td> <td>体験を伝え合い良い点を参考にする</td> </tr> </tbody> </table> <p>学びの手引き（部分）</p>  <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>解決の方法</th> <th>診断テストの結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>集めて、進んで</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ことができた</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	過程	学習目標	第1時	相手を決めて伝えたい内容を考える	第2時	伝えるために必要な情報を集める	第3時	構成を考えながら材料を選び表現を工夫する	第4時	段落の役割を考えて文章を書く	第5時	書いた文章を推敲し清書する	第6時	体験を伝え合い良い点を参考にする		解決の方法	診断テストの結果	集めて、進んで			ことができた			3 学習シートの工夫 学習シートを単位時間毎の学習の流れに沿って構成することで、毎時間の学習成果の確認と振り返りをさせることができた。また、学習上の課題解決の方法を学習シートに示したことで診断Gの評価結果から予測したつまずきに対処することができた。 4 個別指導 個別指導の具体的な手だてとして、「おたすけカード」の活用と意図的な机間指導を行った。概要を以下に示す。 (1) 「おたすけカード」 本実践では次指導過程において三種類の「おたすけカード」を準備して活用した。 <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>過程</th> <th>個別指導の内容</th> <th>対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第2時</td> <td>書こうとする内容のヒント</td> <td>希望者</td> </tr> <tr> <td>第4時</td> <td>正しい表記と間違った表記</td> <td>全員</td> </tr> <tr> <td>第5時</td> <td>文章の書き出しの工夫</td> <td>全員</td> </tr> </tbody> </table> (2) 意図的な机間指導 右の表は第2時での机間指導で活用した座席表である。マーカー部分は診断Gによるつまずきの予測、印は前時の学習目標に到達できなかった生徒を示す。本時は2、3、4、12、13、15、22の生徒に、「おたすけカード」を活用しながら個別指導を行った。 	過程	個別指導の内容	対象	第2時	書こうとする内容のヒント	希望者	第4時	正しい表記と間違った表記	全員	第5時	文章の書き出しの工夫	全員
過程	学習目標																																				
第1時	相手を決めて伝えたい内容を考える																																				
第2時	伝えるために必要な情報を集める																																				
第3時	構成を考えながら材料を選び表現を工夫する																																				
第4時	段落の役割を考えて文章を書く																																				
第5時	書いた文章を推敲し清書する																																				
第6時	体験を伝え合い良い点を参考にする																																				
	解決の方法	診断テストの結果																																			
集めて、進んで																																					
ことができた																																					
過程	個別指導の内容	対象																																			
第2時	書こうとする内容のヒント	希望者																																			
第4時	正しい表記と間違った表記	全員																																			
第5時	文章の書き出しの工夫	全員																																			
終末	5 到達状況の確認 確認Gの評価結果を基に学習成果を確認させて、単元の目標の実現状況を知らせた。																																				

容の変容から明らかになった。以下は、診断Gの評価結果を基に作成した学習シートと「おたすけカード」を活用した個別指導に視点を当てた分析と考察である。

【資料3 - 】つまずきを予測して到達した生徒20の記述内容の変容

指導前の状況	<p>×書き出しの表現の工夫が選択肢と対応していない</p> <p>【診断G書11の問1…B工1と対応】 ア、エのどれかを用いて、昨日給食の様子を説明する作文の書き出しの文章を書きなさい。</p> <p>ア 擬声語を用いることにより衝撃的な出来事を印象づけようとしている。 イ 出来事の背景を丁寧に描写すること、自然に話を進めようとしている。 ウ 会話や語りかけを用いることで、その場面を生き生きと表現しようとしている。 エ 書き手の気持ちを直接的に書くことで、最も述べたいことを勢いよく表現しようとしている。</p> <p>選んだ記号(ア)と記述内容 野菜がきらいで、のこしていると、となりの人から、何回も注意された。その注意がやけに腹立たしかった。</p> <p>×具体的な内容を書いていない</p> <p>【診断G書2の問1…Bイ1と対応】 次の条件に従って学級紹介の文章を書きなさい。 ・二段落構成とする。 ・一段落には学級について感じていることを具体的な出来事を示して書く。 ・二段落には、一段落で書いたことについての考えを書く。</p> <p>記述内容 クラスのみんだといると、きらいな勉強も楽しく感じる。 でも、授業が楽しくなりすぎてつまらなくなり、集中できていない人がいるので、つまらなくなるならいって、楽しく勉強したい。</p>	<p>×書き出しの表現に工夫がある 具体的な事実を書いている</p> <p>【第四・五時で書いた作文…Bイ1・Bウ1・B工1と対応】 スポーツがうまくなりたい人へ</p> <p>皆さんは、試合に勝ちたい、何かがうまくなりたかったと思つたことがありますか。スポーツなどをやっている人は、あると思います。</p> <p>ぼくがそう思うようになったのは、小学生の時に入っていた野球のスポーツ少年団の大会からです。ぼくが初めて県大会に出場したのは、五年生の時です。県大会は一回戦で負けてしまいました。それが悔しくて、うまくなって試合に勝ちたい、そう思うようになり、それまで以上に練習をしました。チームのみんなもそう思って自主トレなどをがんばってやっていたと思います。その成果が出て、六年生の時の大会成績は、二回の優勝と県大会ベスト8という成績を出すことができました。</p> <p>あの有名なイチロー選手や荒川静香さんも、すごく努力をしてきたからあのくらいの実力があるのだと思います。</p> <p>皆さんも何かうまくなって試合に勝ちたいと思うのなら、努力してがんばってみてはどうですか。</p>
指導過程の状況	<p>指導前に実施した診断G書2(部分)</p> <p>指導前に実施した診断G書11(部分)</p>	<p>記述内容の変容</p> <p>第4・5時で書いた作文</p>
指導後の状況	<p>印は確認Gで到達を確認した内容</p> <p>誰にどんな体験を伝えるか決めることができた。 伝えたい内容を考えることができた。 自分の思いをまとめることができた。 <u>自分の思いを伝えるための適切な材料を選ぶことができた。</u> 段落の役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を選んだり、文章を構成することができた。 書き出しや結び、展開部分の表現を工夫することができた。</p> <p>「学びの手引き」への記入(部分)</p>	<p>書き出しの表現に工夫がある 具体的な事実を書いている</p> <p>【確認Gの記述内容…Bイ1・Bウ1・B工1と対応】 この一年間を振り返り誰かに感謝する内容を文章を書きなさい。 ・誰に感謝を伝えるか示すこと。 ・感謝している具体的な出来事を書くこと。 ・その出来事を通して考えたことを書くこと。 ・書き出しを工夫すること。</p> <p>「今回のテストだめかもしれない。勉強が嫌いだ。学校に来たくない。」自分がダメになってしまいそうな時に、その人は笑顔で「がんばろうね。」と言ってくれました。</p> <p>その人の笑顔や色んな言葉で、たくさん救われました。前までは、自分がダメになりそうな時は、一人で考えて自分がきらいなことからにげていました。でも今は、その人の言葉を聞くと、友達もがんばっている。自分もがんばろうと思うようになりました。</p> <p>単元終了時に実施した確認G</p>

(注) 1 生徒の記述内容における傍線部は診断G書2を基に確認した学習上の課題と関連した部分
2 生徒の記述内容におけるマーカー部分は診断G11を基に確認した学習上の課題と関連した部分

診断Gの評価結果を基に作成した学習シート

【資料3 - 】の学習シートは、授業第2時で具体的な出来事を整理して書けない生徒のつまずきに対処することをねらいとして構成したものである。生徒20はマーカー部分のように書こうとする材料を整理した。【資料3 - 】を見ると前頁【資料3 - 】で示した第4・5時で書いた作文と確認Gの傍線部の記述内容がこの学習シートに基づく記述であることが分かる。

「おたすけカード」を活用した個別指導

【資料3 - 】について「おたすけカード1」は、書こうとする体験について11種類の具体例を示したものである。生徒20はこれを第1時で活用した。生徒20の学習シートを見ると、「団体競技で頑張りたい人へ」「個人個人が努力することを伝えたい」という記述があることから【資料3 - 】に示した「おたすけカード1」が有効に働いたことが分かる。「おたすけカード3」は、書き出しの表現について診断Gの解答に例文を付け加えて具体的に示したものである。生徒20はこれを第5時で活用した。第4・5時の作文及び確認Gの書き出しの表現から、「おたすけカード3」のウ「会話や語りかけを用いることで、その場面を生き生きと表現しようとしている」が有効に働いたことが分かる。

以上のことから、診断Gの評価結果を生かした指導として、診断Gの評価結果を基に作成した学習シートと「おたすけカード」の活用が、つまずきが予測される生徒への指導の手だてを具体的になものにする効果があると判断した。

【資料3 - 】指導過程の個別指導で活用した「おたすけカード」

<p>例えば、こんな体験がありませんか？</p> <p>★出来事からイメージしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みや冬休みの課題が予定通り進んで期日までに提出できたこと。 ・部屋の片付けや掃除を一生懸命やって気持ち良かったこと。 ・誰かから親切にしてもらってうれしかったこと。 ・誰かの大切なものをこわしたり、なくしたりしてしまったこと。 ・誰かに喜んでもらったこと <p>★考えたことからイメージしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さを考えた体験。 ・努力して良かったと思った体験。 ・便利な生活だからこそ困った体験。 ・家族のありがたさを感じた体験。 ・友達のありがたさを実感した体験。 ・部活動から何かを学んだ体験 ・誰かの言葉に感動した体験 	<p>ア 読書誌を用いることにより、衝撃的な出来事を印象づけようとしている。</p> <p>例 スズメ、沢田くんが勢いよく牛乳を吸い上げた。 * 読書誌の音や動物の鳴き声などをまねて表したもの。 「がたがた」「ワンワン」など</p> <p>イ 出来事の背景を丁寧に描写することで、自然に話を進めようとしている。</p> <p>例 今日の朝立は、私の大好きなコンコンコロッケだ。</p> <p>ウ 会話や語りかけを用いることで、その場面を生き生きと表現しようとしている。</p> <p>例 「ねえ、シチゴはまだ残っていません」宮田さんが聞いた。 例 誰かさんらしくすることがありますか。</p> <p>エ 書き手の感情を直接的に書くことで、最も述べたいことを思いよく表現しようとしている。</p> <p>例 今日は午後1時以降があるので、みんな楽しみにしている。 なんだかいつもより嬉しさがこぼれ出ているので、おもしろい。</p> 
<p>「おたすけカード1」(第2時に希望者に配布した)</p>	<p>「おたすけカード3」(第5時に全員に配布した)</p>

【資料3 - 】第2時の学習シート(部分)

体験の内容(いつ・どこで・だれが・何を)

- ・6年生のころに自分が入っていたスポーツ少年団のこと
- ・2回目の優勝と県大会でベスト8になったこと
- ・大会で勝つためにチームみんなが個人での努力を続けたこと
- ・頑張ってきた成果がでたこと

体験をおおして考えたこと

チーム全体での練習は自分の練習じゃなくチームの練習だ

体験や引用、関連する話題の挿入 (チャレンジ)

イチロー選手もそうしてききましたから

(注) マーカー部分は学習シートに示した材料整理の観点

(1) 診断Gの評価結果が生かせなかったことについて分析と考察

診断Gの活用について、次の二点が課題となった。Gアップシートを診断Gとして活用する際に、どの時点でつまずく可能性があるのか段階的な診断ができないシートがあることと、単元の目標と診断Gの評価結果との関連を生徒に十分に理解させる手だてが不足したことである。このことは、【資料3 - 1】つまずきを予測して到達しなかった生徒26の記述状況と16頁【資料3 - 2】つまずきを予測せず到達しなかった生徒12と生徒14記述状況から明らかになった。以下は、診断Gの問題構成に関する課題と「学びの手引き」に関する課題に視点を当てた分析と考察である。

診断Gの問題構成に関する課題

生徒26の学習上の課題は【資料3 - 1】つまずきを予測して到達しなかった生徒26の記述状況

自分が感じていること、そのことに関する具体的な出来事を書くことができないことであった。指導過程では、「おたすけカード」を活用して机間指導を行った。しかし、【資料3 - 1】の第4・5時で書いた作文と確認Gでは、自分の考えを書くことができなかったことと、具体的な出来事の記述が不十分であったことから、単元の目標に到達しなかった。

診断Gでは、自分の考えを書かせるために、aある物事に対して感じていることを書く、bそう感じた具体的な出来事を書く、cその具体的な出来事について、なぜそう感じたのかという自分の考えを書く、という手順の構成になっている。生徒26の場合、aでは学級について「楽しい」と書くことができたが、bについては「毎日がとても楽しい。みんなおもしろいから。」とあり、具体的な内容の記述となっていない。そのため、

指導前の状況	<p>指導前に実施した診断G</p> <p>【診断G書2】 「私の学級」というテーマで作文を書くか次の内容を箇条書きでメモしなさい。 ・感じていること ・具体的な出来事 超たのしい所では「うざい」 毎日がとても楽しい。みんながおもしろいから。1人だれかがいうと、また同じことをだれかがつづけていう。 二 次の条件に従って学級紹介の文章を書きなさい。 a 二段落構成とする。 b 一段落には学級について感じていることを具体的な出来事を示して書く。 c 二段落には、一段落で書いたことについての考えを書く。 記述内容 私の学級は超×10楽しいです。いつもうるさいけどそういうところが好きです。(おもしろすぎ)</p>
指導過程の状況	<p>第4時・5時で書いた作文</p> <p>【第四・五時で書いた作文】 ねこがキライな人へ あなたはねこがキライですか？ 私は、ねこの「ね顔」がすごく好きです。きつかけは、兄がきんじよの所にいるねこをもらつてきて、飼っているうちに大好きになりました。 私の家のねこは、名前を呼ぶとすぐ来てくれるし、かわいければかわいがるほどすごくなついてくれて超かわいいです。キライな人はまず最初は、こわいかもしれないけどさわってみてください！</p> <p>感じていることを書いている ×自分の考えを書いている ×具体的な出来事を書いている</p>
指導後の状況	<p>単元終了時に実施した確認G</p> <p>【確認Gの記述内容】 この一年間を振り返り誰かに感謝する内容の文章を書きなさい。 ・誰に感謝を伝えるか ・感謝している具体的な出来事を書くこと。 その出来事とおして考えたことを書くこと。 書き出しを工夫すること。 いつもいつもバレーでめいわくをかけてしまつてごめんなさい。けど三年生のおかげでアンダーやオーバーができるようになった。本当にありがたいです。</p> <p>感じていることを書いている ×自分の考えを書いている ×具体的な出来事を書いている</p>

(注) 1 傍線部分は生徒26の学習上の課題「感じていること」、「自分の考え」の部分
2 マーカー部分は生徒26の学習上の課題「具体的な出来事」の部分

cでその出来事について自分の考えを書くことができなかつたと考えられる。本授業実践で診断Gとして活用したGアップシートの構成について、例えば、a心に残る出来事を書く、bなぜ心に残ったのかを書く、cその出来事とおして考えたことを書く、のように単元の学習内容と同じ構成であったならば、生徒26が指導過程のどの時点でつまずき可能性があるかを細やかに予測できたのではないだろうか。それにより、「おたすけカード」の内容も生徒26のつまずきに対応したものにするのができたのではないかと推察される。

そこで、指導過程における学習と診断Gとの関連を整理した上で指導内容と対応するように編集した診断Gを活用することにより、つまずきについての段階的な診断が可能ではないかと考えた。なお、ここでいう段階的な診断とは、単元の目標に到達するために中核となる力が積み上げられていく過程のどの時点でのつまずきが予測されるかを診断することである。

「学びの手引き」に関する課題

生徒12と生徒14の単位時間 【表5】単位時間の評価及び確認Gに基づく到達状況（抜粋）
N=29
及び確認Gの到達の状況を【表5】に示した。生徒12は、診断Gにより、つまずきの心配がないと判断したものの第1時、第2時、第3時の目標に到達することができなかった。

座席番号	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	作品	確認G
		Bイ 1	Bイ 1	Bウ 1 言エ 2	Bイ 1 言エ 2	Bエ 4	Bオ 1	Bイ 1 Bウ 1 Bエ 4 言エ 2
12								Bイ 1
14								Bイ 1

（注）表中の は単位時間の目標に到達できなかった、いわてスタンダードの中核となる力

これは、授業時間内に取組を終了させることができず、生徒12自身の学習活動が次時にずれ込んだためである。生徒14の第5時についても同様で、授業時間内に取組が終了しなかったための評価結果である。

生徒12と生徒14が確認Gで到達できなかったBイ 1 は、材料となる具体的な出来事を書くことと、自分の考えを書くことの二つの力に関するものである。生徒12と生徒14はともに、診断Gと第4・5時に書いた作文ともBイ 1 の到達状況が十分満足であると判断できる生徒であった。しかし、単元の終了時に実施した確認Gの評価結果では、Bイ 1 の材料となる具体的な出来事を書くことはできているものの、自分の考えを書く部分において不十分であった。そのために、この二人の生徒は単元の目標に到達できなかったと判断した。生徒14が第4・5時で書いた作文と確認Gの記述状況については、次頁【資料3 - 】に示したとおりである。

そこで、診断G及び指導過程において単元の目標に到達した生徒12と生徒14が、なぜ確認Gでは単元の目標に到達できなかったのか、次のように考察した。指導過程においては単位時間毎の目標について、何ができればよいのか具体的な到達の姿を学習シートと「学びの手引き」に示している。そのため、第4・5時で取り組んだ作文について、どのようにできればよいのか生徒が理解しながら書くことができた。しかし、単元終了時に実施した確認Gでは、作文についての評価の観点は示してはいるものの、その観点が単元で身に付けさせたい中核となる力とどのように関連しているのかが生徒が理解できるような「学びの手引き」となっていないために、「出来事とおして考えたこと」についての記述が不十分であったと推察される。

以上のことから、診断Gの評価結果の生かし方として、単元の目標について何ができればよいのか、どの程度できればよいのか、生徒に十分に理解させながら学習に取り組ませるために、次の三点について具体的に示す必要があるのではないかと考えた。

- ・単元で身に付けさせたい中核となる力と診断Gで評価する既習の中核となる力との関連
- ・診断Gで確認した生徒自身の学習上の課題と指導過程における取組内容との関連
- ・指導後に実施する確認Gと評価する中核となる力との関連

そのためには、指導過程で活用する「学びの手引き」が生徒に単元の目標に到達した姿を具体的に理解させるものでなければならない。診断Gの評価規準を「学びの手引き」に示すことにより、単元の目標との関連を明確にすることができるのではないかと考えた。

【資料3 - 】つまずきを予測せず到達しなかった生徒12と生徒14の記述状況

生徒14の記述内容	生徒12の記述内容
<p>【第四・五時で書いた作文】 皆さんは鉄道に乗ると聞いてどういう気持ちになりますか。べつになんとも思わないという人いますよね。そんな人に読んでほしいのがこの作文です。 自分のは鉄道に乗っていても楽しいです。それは、まず窓の外を見ているからだと思います。窓の外にはたくさん美しい景色があるので車内から過ぎて行く景色を見ているとわくわくしてきます。 (後略)</p> <p>出来事をおして考えたことを書いている</p>	<p>【第四・五時で書いた作文】 団体競技は、チームプレーが大切ですが、チームプレーは周りの人達との関係が大切なので、とても難しいものです。そのチームプレーを簡単にする方法を自分の体験を使って教えようと思います。 自分はバレー部で、試合中に攻撃などが思ったようにできなくて、困ったことがよくあります。ちがう競技でも、似たようなことがあると思います。そんな時は、周りのみんなと話し合うと、思った通りのことができると思っています。(後略)</p> <p>出来事をおして考えたことを書いている</p>
<p>【確認Gの記述内容】 井堂先生、菅原先生、版画を作る際にはとてもお世話になりました。ぼくたちの班で版画を彫っていて失敗したときにアドバイザーをくれました。井堂先生と菅原先生には下書きのときからアイデアをだしてもらったりと最後までお世話になりました。本当にありがとうございました。</p> <p>×出来事をおして考えたことを書いていない。</p>	<p>【確認Gの記述内容】 私は、部活のこもんの中野先生に感謝しています。 中野先生には、カットのしかたやスパイクの打ち方など色々なことを教えてもらいました。これからも中野先生にバレーを教えてもらいたいと思いた。これからも宮中でバレーと授業を教えてください。</p> <p>×出来事をおして考えたことを書いていない。</p>

(注) 1 各冒頭に示した ×のマーク部分は、記述内容についての評価の観点
2 文章中のマーク部分は上記1の評価に対応した記述

(2) Gアップシートの編集による活用と「学びの手引き」の改善に関する授業実践2

Gアップシートの編集による活用と「学びの手引き」の改善に関する授業実践2では、Gアップシートを編集して活用することと「学びの手引き」に診断Gの判断基準を示したことにより、単元の目標との関連を生徒に十分理解させる効果を確認した。これにより授業実践1で明らかになった課題が解決した。以下は授業実践の概要及び分析と考察である。

ア 授業実践2の概要

本授業実践の内容は、教科書にある「纏」の解説文を読んで、その内容を小学校3年生の児童にわかりやすく説明するための話の構成を指導するものであり、花巻市立宮野目中学校第3学年1学級(30名)を対象として実施した。(単元及び単位時間毎の指導計画, 診断G, 学習シート, 確認Gは補充資料16頁~30頁)

診断Gの評価結果をさらに有効なものにするために試みた方法について、Gアップシートの編集と活用、「学びの手引き」の改善の順で概要を述べる。

(ア) Gアップシートの編集と活用

Gアップシートを編集して活用することのねらいは、生徒のつまずきについて、どの時間のどの場面つまずく可能性があるか、より細やかに予測することにある。これにより、生徒のつまずきに対処できるように学習シートを作成して活用した。

この学習シートの一部が実演シートである。この実演シートを活用することにより、診断Gの評価結果と単元の目標に到達した姿との関連を生徒に具体的に理解させながら学習に取り組ませようと考えた。これにより単元の終了時に実施する確認Gとの関連がより明確になると考えたからである。以下にGアップシートの編集と活用について、診断G、実演シート、確認Gの順に概要を示す。

診断Gとしての編集

診断Gとして活用するためにGアップシートを次のように編集した。

- ・ 1枚のシートで二つの観点Aイ1とAウ1に対応した問題とする
- ・ 中核となる力の積み上げ過程に沿った問題構成とする
- ・ 本単元で扱う教材と関連のある内容とする

本単元で身に付けさせたい力は、いわてスタンダードの中核となる力Aイ1

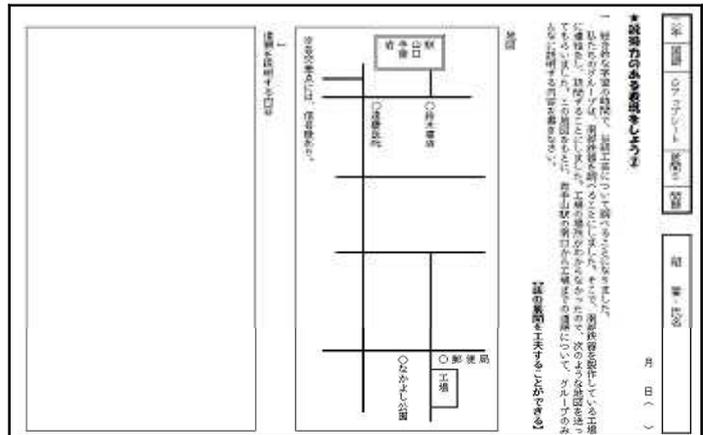
「内容を的確に伝えるために、論理的な構成や展開を工夫することができる」及びAウ1「聞いてわかる語句を選ぶことができる」であり、いわてスタンダードの中核となる力Aイ1に対応した【資料4-】のシートの活用が可能である。しかし、Aウ1の観点に対応していないことと、発問の内容が本単元の目標と対応していないという理由から、次のように編集して診断Gとして活用することにした。

【資料4-】は編集後のGアップシートである。このシートを活用することにより、Aイ1 Aウ1 二つの観点で診断評価ができるように問題を次のように編集した。

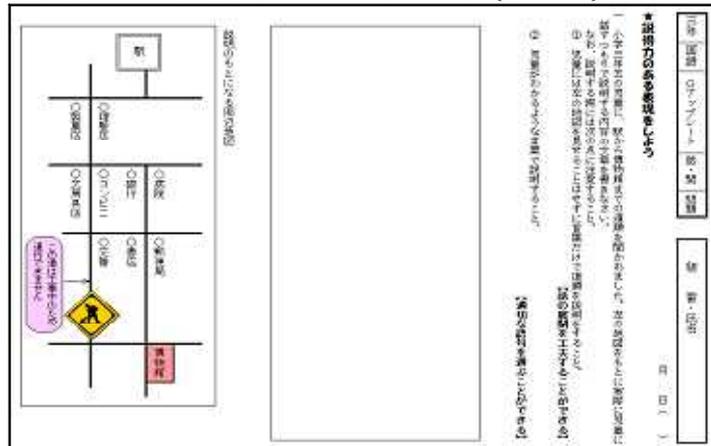
- ・ 説明する対象が小学校3年生の児童となるよう発問の指示内容を変えたこと
- ・ 説明の基になる地図のポイント地点を増やしたこと
- ・ 小学校3年生の児童には難解と思われる語句として、理髪店、製菓店などを用いたこと

このようにシートを編集することにより、情報を把握する力、情報を取捨選択する力、選択した情報をもとに簡潔に説明する力について段階的な診断が可能になると考えた。

【資料4-】編集前のGアップシート



【資料4-】編集後のGアップシート（診断G）



実演シートとしての編集と活用

診断Gの評価結果と単元の目標に到達した姿との関連を生徒に具体的に理解させるために、前頁【資料4 - 】の診断Gの問題をさらに編集して、実演シートとして活用した。【資料4 - 】は実演シートであり、学習シートの一部である。この実演シートは、実施後の診断Gで見られた次のような誤答を基に編集した。

- ・説明のポイントとなる全ての地点に触れている
- ・説明が長い
- ・不必要な情報がある（道路工事のこと）
- ・理髪店や製菓店を置き換えていない

実演シートは、診断Gを返却する前の単元の導入時に取り組みさせた。取組の流れは次のとおりである。まず、上記の誤答を基に作成した説明の原稿を生徒に読み聞かせた。次に、実演シートを配布し、なぜ聞いて分かりにくいのかを考えさせた上で診断Gの判断基準を示した。その後、採点済み評価結果を記入した個票を貼付した診断Gを返却し、生徒に自分の学習上の課題を確認させた。【資料4 - 】左側が診断Gに貼付した個票である。

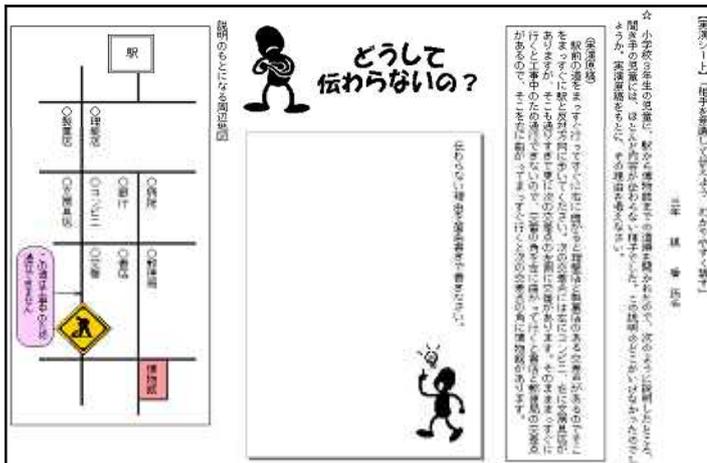
確認Gとしての編集と活用

単元の目標の到達状況を確認するために、単元の終末に【資料4 - 】の確認Gを実施した。このシートの評価問題は、診断Gを基に次の点に留意して編集したものである。

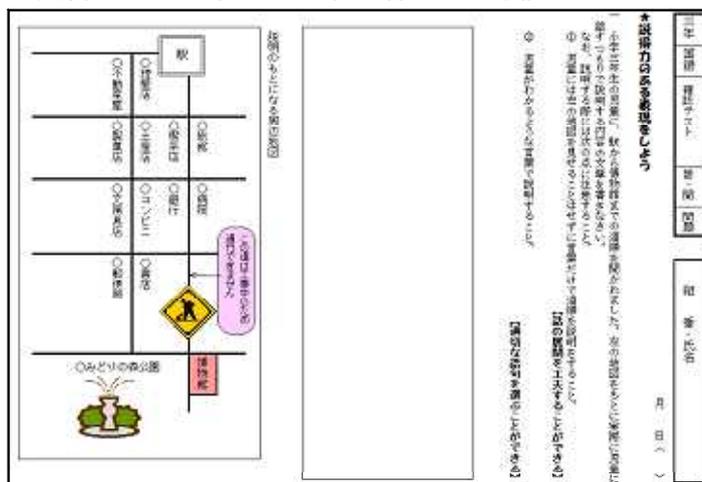
- ・発問内容は診断Gと同一であること
- ・説明の基になる地図の配置を変えること
- ・目印となる地点を増やすこと

このシートは診断Gとは異なる条件の評価問題であるが、診断Gと同じ問題構成であるため、アイ1とアウ1の定着状況を生徒自身が明確に確認することができる。確認Gは、教師が採点し、【資料4 - 】右側の個票を貼付して返却した。

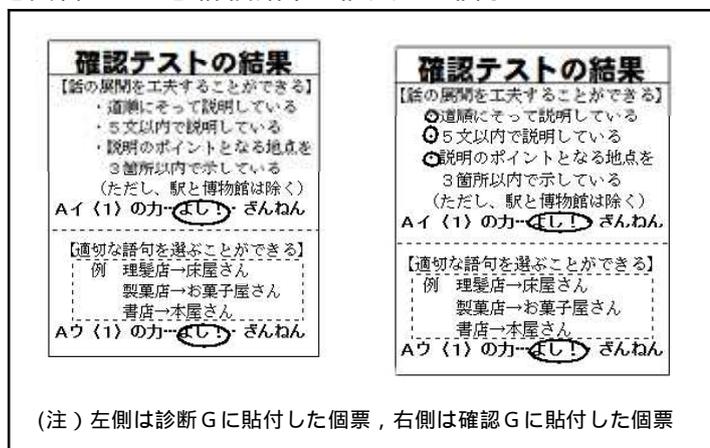
【資料4 - 】実演シート



【資料4 - 】単元の終末で活用した確認G



【資料4 - 】評価結果を記入した個票



(注) 左側は診断Gに貼付した個票、右側は確認Gに貼付した個票

(1) 「学びの手引き」の改善

単元の目標と診断Gの評価との関連が明確になるように「学びの手引き」の改善を図った。改善点は、診断Gの判断基準を示したことで、既習事項毎に評価結果を示したことである。

【資料4 - 】は改善前の「学びの手引き」(部分)であり、授業実践1で活用した。診断テストの結果について、例えば下線部「感じていることとそれに関係のある具体的な出来事について書き出すことができる」のように、二つの観点を同時に示したのもや、「書き出しの表現効果について考えることができた」のような表記では、生徒に何ができて何ができなかったのかを十分に理解させることができない。

そこで、診断Gの評価と単元の目標との関連が明確になるように改善したものが【資料4 - 】である。【資料4 - 】の「学びの手引き」は、診断Gの判断基準を具体的に示し、それに基づく評価結果について生徒が分かるように「よし」「ざんねん」のいずれかで示した。本授業実践では自分の学習上の課題に応じて学習コースの選択をさせることにより、さらに学習への意識化をねらった。

イ Gアップシートの編集による活用と「学びの手引き」の改善に関する授業実践の分析と考察

【表6】は、本実践における単位時間の評価及び確認Gに基づく到達状況である。表中のマーカ一部分が診断Gの評価結果からつまずきを予測した生徒であるが、第5時・第6時で実施した実演テスト及び確認Gにおいて全員が単元の目標に到達した。

診断Gの評価結果を生かした指導をさらに有効なものにするために、Gアップシートを編集して活用することと、「学びの手引き」の改善による指導の効果について【表6】に示す25番の生徒(以後生徒25)を抽出し分析と考察を行う。生徒25は、診断GにおいてAI 1「話の展開を工夫することができる」が学習上の課題であったが、指導過程における学習シートと実演テスト及び確認Gの結果から変容が顕著であることから抽出した。

【資料4 - 】改善前の「学びの手引き」(部分)

学習成果の確認	解決の方法	診断テストの結果
①自分の体験の中から必要な材料を集めて、自分の思いを紙と糸でつなぐ。進んで表現を工夫しようとした		
②誰にどんなことを伝えるか決めることができた Bイ(1) ③伝えたい内容について材料を集めることができた Bイ(1) ④自分のアポイントを伝えるために必要な材料を集めることができた Bウ(1) ⑤交流会を通して材料の集め方や表現の工夫について参考にすることができた Bオ(1) ⑥段落の役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだりして、文章を書くことができた Bエ(4)	□どう思うか、なぜそう思うか、例えばどんなときにそう思うか考えてみよう Bア(2) □段落構成についてわからない人は、教科書p108を読もう □材料となる具体的な出来事を書かなかった人は、「いつ・どこで・どんなことがあった」について整理してみよう □自分の考えを書かなかった人は、「どう感じたか、なぜそう感じたか、どうあればよいか」を整理してみよう Bア(3)	【診断G書2-1】 □感じていることとそれに関係のある具体的な出来事について書き出すことができた Bア(2) □2段落構成で書くことができた Bア(3) □自分の感じていることについての具体的な出来事を書くことができた Bア(3)
⑦段落の役割を考えて、書き出しや結び、会話を工夫することができた	□原声録については教科書p185にあります。表現の効果が違いについては事案と意見を区別して読み比べてみよう Bエ(2) □ローのA～Dからひとつ選び、まねして書いてみよう Bエ(2)	【診断G書1-1】 □自分の感じていることについて考えることができた Bエ(2) 【診断G書1-2】 □読み手の興味を引く書き出しを工夫することができた Bエ(2)

【資料4 - 】改善後の「学びの手引き」(部分)

学習成果の確認	解決の方法	診断テストの結果
①相手にわかりやすく伝えるためにどのような工夫ができるか考えることができた ★チャレンジ学習への取り組みをした		
②「わかりやすい説明の4条件」にしたがって情報を整理することができた ③相手にわかりやすく伝えるために必要な情報を集めることができた ④次の点に注意して話すことができた □わかりやすい説明の条件を記入している □ロートリッシュとラベリングをしている □話の条件逐一項目が一まとめになっている ★自分の材料を整理してわかるように、説明の工夫をした AI(1)	【話の展開を工夫することができる】 ・ 順番にそろって説明している ・ B文以内で説明している ・ 説明のシートとなる紙を1～8箇条目内で折っている (ただし、紙と説明物は別々) AI(1)の「かーよし!ざんねん」	
⑤相手にわかる話を選ぶことができた ⑥次の点に注意して話すことができた □相手の話を聴く態度がよいこと □相手に聞かせる声の大きさであること □話のまとまりを工夫することができた ★学習上の課題の進捗や表現の改善について話し合った 1年生が及び2・3年生が	【話の展開を工夫することができる】 相手の耳から話の理解状況を予測して、必要な場合は別の言葉や表現に置き換えてみよう (簡単な言葉、たとえによる説明 など)	【説明の役割を学ぶことができる】 例 登場人物一筆書き 登場人物一筆書き 得意一本筆書き Aウ(1)の「かーよし!ざんねん」
⑦次の点に注意して話すことができた □相手の話を聴く態度がよいこと □相手に聞かせる声の大きさであること □話のまとまりを工夫することができた ★学習上の課題の進捗や表現の改善について話し合った 1年生が及び2・3年生が		

(注)「学習成果の確認」のマーカ一部分は、実演テストの評価の観点

【表6】単位時間の評価及び確認Gに基づく到達状況

N = 30

座席番号	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時・第6時 実演テスト	確認G
	AI 1	AI 1	AI 1	Aウ 1	AI 1・Aウ 1	AI 1・Aウ 1
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						

(注) 1 表中のマーカ一部分は診断Gによりつまずきを予測した生徒
2 表中の は 単位時間の目標に到達できなかった生徒

(ア) Gアップシートの編集と活用の効果についての分析と考察

本授業実践では、Gアップシートを既習事項についての段階的な診断をするために編集して活用した。その結果、教師は生徒のつまずきについて、どの時間のどの場面つまずく可能性があるか、より細やかに予測することができた。これにより、学習シートの内容が生徒の学習上の課題とより具体的に対応した学習シートを作成したため、診断Gの評価結果と単元の目標に到達した姿との関連を生徒に具体的に理解させながら学習に取り組ませる効果が認められた。このことは、次頁【資料5 - 】Gアップシートを編集して活用した指導による生徒25の記述内容の変容から明らかになった。以下Gアップシートの編集と活用について、診断G、実演シート、確認Gの順でその効果を整理しながら、指導過程におけるGアップシートの編集と活用の効果についての分析と考察を行う。

診断Gとしての編集と活用

診断しようとする内容を1枚のシートで評価結果が得られるように編集をしたものを診断Gとして活用した。生徒25は、中核となる力Aウ 1「適切な語句を選ぶことができる」は到達した。記述をみると「理髪店」を「髪を切る店」と置き換えているからである。しかし、Aイ 1「話の展開を工夫することができる」は到達しなかった。「T字路」「十字路」「二つ目の十字路」といったポイント地点や左右の指示が繰り返し出てくるため説明が複雑になっているからである。駅から博物館までの道順に沿って説明してはいるものの、必要な場所の説明が多く、話の内容も長すぎる。このことから、生徒25については、情報の読み取りはできるが、説明のために必要な情報の取捨選択の段階でのつまずきを予測することができた。

実演シートとしての編集と活用

単元の導入で活用した実演シートは、診断Gの評価結果を生徒に知らせる前に活用した学習シートの一部である。教師が読み聞かせた実演原稿について、生徒25は「理髪店」と「製菓店」の置き換えが必要なことと説明のポイントとなる地点が多くて分かりにくいことを指摘した。この実演シートを活用した後に診断Gの自分の記述内容を確認させたことで、生徒25は自分の学習上の課題をより具体的に理解したものと考える。後述の単元の指導過程における到達状況や、確認Gの記述内容の変容からこのように判断した。

確認Gとしての編集と活用

確認Gは、診断Gとは異なる条件の評価問題であるが診断Gと同じ問題構成で作成した。診断GではAイ 1「話の展開を工夫することができる」が生徒25の学習上の課題であったが、確認Gの記述内容から到達が確認できた。このことから、Gアップシートの編集と活用により生徒に自分の学習上の課題を具体的に示し、それを理解させながら学習に取り組ませた効果であると推察される。

指導前の状況

×説明のポイント地点が多すぎる
×説明が長く左右の指示が多い

【診断G話・聞（編集版）】
小学三年生の児童に、駅から博物館までの道順を聞かれました。左の地図をもとに実際に児童に話すつもりで説明する文章を書きなさい。

なお、説明する際には次の点に注意すること。
× 児童には左の地図を見せることはせずに言葉だけで道順を説明すること。
【話の展開を工夫することができる】
児童にわかるような言葉で説明すること。
【適切な語句を選ぶことができる】

生徒25の記述内容
駅を出てまっすぐ行くとあなたから見て前に「T」字路が出てきます。そこを右に曲がって下さい。その道をまたまっすぐすすみますと「十」字路があります。「十」字路の左側に髪を切る店があるのでそこを左に曲がって下さい。そこを曲がって進んで一つ目の「十」字路を左に曲がって下さい。そのまま進んでいくと銀行が見えてきます。その銀行の所を右に曲がって下さい。そこをずっとまっすぐ行って二つ目の「十」字路のあたから見て左ななめ前にあります。

単元の導入での活用

・ポイント地点を多く、左右の指示を複雑にした
・相手に分からない語句を用いた

【実演シート】
小学三年生の児童に、駅から博物館までの道順を聞かれましたので、次のように説明したところ、聞き手の児童は、ほとんど内容が伝わらない様子でした。この説明のどこがいけなかったのでしょうか。実演原稿をもとにその理由を考えなさい。

実演原稿
駅前の道をまっすぐ行つてすぐ右に曲がると理髪店と製菓店の交差点があるのでそこをまっすぐ、反対方向に向かって歩いてください。次の交差点には左にコンビニ、右に文房具店がありますが、そこも通り過ぎて更に次の交差点の左側に交番があります。そのまままっすぐに行くといくつの中のため通行できないので、交番の角を左に曲がって行くと書店と郵便局の交差点があるので、そこを右に曲がってまっすぐ行くと次の交差点の角に博物館があります。



地図の配置を変え、ポイント地点を増やした

指導過程における到達状況については省略する

【演習シートへの生徒25の記述】
伝わらない理由を簡潔書きで書きなさい。

・相手と反対方向がよくわからないから
・理髪店と製菓店がよくわからないから
・説明の場所が多すぎてよくわからない

相手が分からない語句を指摘できた
相手が分からない指示を指摘できた
ポイント地点が多いことを指摘できた

単位時間毎の指導

説明のポイント地点が絞られた
説明が短く左右の指示が減った

【確認G話・聞】
小学三年生の児童に、駅から博物館までの道順を聞かれました。左の地図をもとに実際に児童に話すつもりで説明する文章を書きなさい。

なお、説明する際には次の点に注意すること。
児童には左の地図を見せることはせずに言葉だけで道順を説明すること。
【話の展開を工夫することができる】
児童にわかるような言葉で説明すること。
【適切な語句を選ぶことができる】

生徒25の記述内容
駅の右側の道路をまっすぐ行くと床屋さんがあります。そこを左へ曲がってください。そのままずっとまっすぐ行って公園の前の道路を左に行くとななめ前に博物館があります。



指導後の状況

(注) 1 各冒頭に示したマーカー部分は、記述内容についての評価の観点
2 文章中のマーカー部分は上記1の評価に対応した記述

【資料5 - 】第5時の実演テストで生徒25が話した内容（VTR映像を基に記述したもの）

まとめ	話の現在地（伝えたい内容）	話の全体像
<p>今日は、纏が使われていた時代と、どんな人が使っていたか説明しました。</p>	<p>纏は江戸時代という、ちゃんまげや着物を着て生活している時代に使われていました。</p> <p>纏はこのような形をしています。（写真資料提示）この纏の形はけしの実とますの形で、けしますという意味を表しました。</p> <p>次に、どんな人が使っていたかを話したいと思います。纏は、町火消しという人が使っていました。町火消しとは、今でいう消防士のことです。この人たちは町の人たちのあこがれで、尊敬されています。なぜかという、火事になると、これ以上火が広がらないように消火する場所を知らせる、大事な役割を果たしていたからです。</p>	<p>【指導過程での生徒25の纏の説明の内容】</p> <p>こんにちは、これから纏について、いつの時代の、どんなもので、どんな人に使われていたかについて説明します。</p> <p>かかわり合いの表現を入れたナンバリングとラベリングをしていた話の全体像・話の現在地・まとめになっていた</p> <p>相手が聞き取れる速さ・声の大きさを話していた</p> <p>相手の反応を確かめて話していた</p>
<p>【纏について】</p> <p>江戸時代、江戸の土地は武家の所有地が約七〇パーセント、町人の住む土地が約一六パーセントだった。ところが、武家と町人の人口はほぼ同数であった。つまり、町人の住む土地の人口密度は非常に高く、そのうえ、木造の家がびっしりと立ち並んでいた。そのため、江戸の庶民にとって、火事は恐るべき災害となっていたのである。</p> <p>当時の消火方法は、小規模なポンプ（龍吐水とよばれた）があつたものの、大半は燃え移りそうな家屋をあらかじめ破壊することで、それ以上被害が広がらないようにすることだった。つまり、延焼を阻止することが消火作業の主な目的で、町火消しとよばれる人々が火事に勇敢に立ち向かった。町火消しは、庶民の生活を守る重要な仕事に携わっており、庶民のあこがれの対象でもあつた。</p> <p>さて、写真はその町火消したちが使つた「纏」とよばれる道具を復元したものである。町火消しはそれぞれ持ち場ごとに「組」に分けられていた。ここに示したものは、「い組」の纏で、上の「けしの実」を、「が」「升」をデザイン化したものである。つまり、二つ合わせて「けします（消します）」ということになる。</p> <p>町火消したちは、現場に着くと、まず纏持ちを屋根に上げ、延焼を食い止める位置を示させた。高い所で振りかざされる纏は、組の目印にもなり、庶民に町火消しが火事現場に到着したという安心感を抱かせる役目も果たしていた。まさに、この纏持ちこそ町火消しの中の花形であつたのだ。</p> <p>（光村図書平成十八年度版中学校国語3三四頁～三三八頁から、三五頁～三六頁の【纏について】を使用）</p>		
<p>（注）1 各冒頭のマーカー部分は、記述内容についての評価の観点 2 文章中のマーカー部分は上記1の評価に対応した記述</p>		

【資料5 - 】は第5時における実演テストで生徒25が話した内容である。冒頭のマーカー部分がこの単元で身に付けさせたい中核となる力Aイ(1), Aウ(1), 第1学年言ア, 第2学年及び第3学年言アの到達を確認するための判断基準であり, 生徒25はすべて到達した。右の写真から分かるように, この実演テストは聞き手である教師の目を見ながら話すものであり, 説明のための原稿は一切書かせていない。右の生徒が手にしている学習シートは, 話す順番を付箋で構成した簡単なメモ



第5時 実演テストで教師の目を見ながら話す生徒

である。この学習シートへの取組は第3時で行った。次頁の写真がその様子である。教科書にあ

る纏についての解説文から必要な情報を選び、話の展開を工夫している。【資料5 - 1】の解説文のマーカー部分は、生徒25が選んだ情報である。纏についての詳細な情報の中から、自分にとって必要な情報のみを絞り込んでいることが分かる。これは、指導内容を重点化したことで生徒25が診断Gの評価結果を十分に理解することができ、自分の学習上の課題であるアイ(1)を意識しながら学習に取り組んだためだと考えられる。以上のことから、Gアップシートを既習事項の定着状況を



第3時 付箋を用いて情報を整理する生徒

段階的に診断するために編集して活用することにより、生徒に自分の学習上の課題を具体的に示し、それを理解させながら学習に取り組ませる効果があることが分かった。

(1) 改善後の「学びの手引き」の効果についての分析と考察

単元の目標に到達した姿と診断Gの評価結果との関連が明確になるように「学びの手引き」を診断Gの判断基準を示す、診断項目毎に評価結果を示す、ように改善して活用した。その結果、生徒に単元及び単位時間毎の目標を意識させながら学習に取り組ませることができた。これにより、生徒に国語科として身に付けさせたい力と単元の学習とを結び付ける効果を確認した。このことは、21頁【資料5 - 1】と前頁【資料5 - 1】で示した生徒25の到達状況から明らかになった。以下は、診断Gの判断基準を示すことと診断項目毎に評価結果を示すことについての分析と考察である。

診断Gの判断基準を示すこと

【資料5 - 1】の「学びの手引き」(部分その1) 【資料5 - 1】生徒25の「学びの手引き」(部分その1)

学びの手引き(部分その1) 診断テスト(診断Gのこと)の判断基準は、学習成果の確認に記述した情報の整理、情報の選択と対応している。は実演テストの判断基準で

学習成果の確認	解決の方法	診断テストの結果
<p>①相手にわかりやすく伝えるためにどのような工夫ができるか考えることができた</p> <p>②「わかりやすい説明の条件」にしたがって情報を整理することができた</p> <p>③相手にわかりやすく伝えるために必要な情報を選ぶことができた</p> <p>④次の点に注意して話すことができた</p> <ul style="list-style-type: none"> 口がわかりやすい表現を入れている ナンバリングとラベリングをしている 口調の全体像→現在地→まとめている <p>★目標の資料を凝視してわかりやすい説明の工夫をした</p> <p>アイ(1)</p>	<p>相手の工夫に力を入れよう。(説明コース)</p> <p>相手に伝えるために必要な情報を整理して、どの順番で説明するかを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要最小限の情報だけを添えること 説明の仕方を構想すること <p>「わかりやすい説明の条件」を要素にしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> かかわり合いの表現 ナンバリングとラベリング 話の全体像→現在地→まとめる 	<p>【話の展開を工夫することができる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①直観にそって説明している ②5文以内で説明している ③説明のポイントとなる地点を3箇所以内で示している <p>(ただし、駅と博物館は除く)</p> <p>アイ(1)の力→よし！さんねん</p>

あり、実際の場面での の到達の姿を示した。例えば、診断Gの評価結果では、生徒25は説明のために必要な情報の選択ができなかったが、前述のとおり実演テスト及び確認Gで到達した。生徒25のみならず検証対象全員が到達していることから、診断Gの判断基準を示したことにより単元の目標に到達した姿を生徒25に理解させて学習に取り組ませる効果があったものとする。

診断項目毎に評価結果を示すこと

次頁【資料5 - 1】「学びの手引き」(部分その2), のように既習事項毎に診断テストの評価結果を生徒に示した。このねらいは生徒に自分の学習上の課題を意識させながら学習に取り組ませることであった。本授業実践では、診断Gで確認した学習上の課題に応じてコース選択学習を行った。生徒25はアイ(1)が課題であったため、展開コースを選択したことが分かる。

このコース選択学習は、第5時の実演練習で隣同士がペアとなり、説明の仕方について説明を互いに評価し合うものであった。取組の様子から生徒25がAイ(1)を十分意識して説明の練習していることが確認できた。このことから、既習事項毎に診断テストの評価結果を生徒に示すことにより、生徒に自分の学習上の課題を意識させながら学習に取り組ませる効果があったものと考えられる。

ただし、本実践では、写真(上)のように単元の目標を毎時間提示しながら各自の学習課題を確認させるようにした。生徒の学習課題への意識を継続させるためには、「学びの手引き」の内容を毎時間繰り返し確認させることが必要である。そこで写真(下)の囲み部分のように目標ボードを準備して毎時間の導入時に提示した。例えば第4時の場合は、目標がAウ(1)であるので、それが分かるようにマークを貼って見せた。このような工夫が指導の効果を高めたと考えられる。

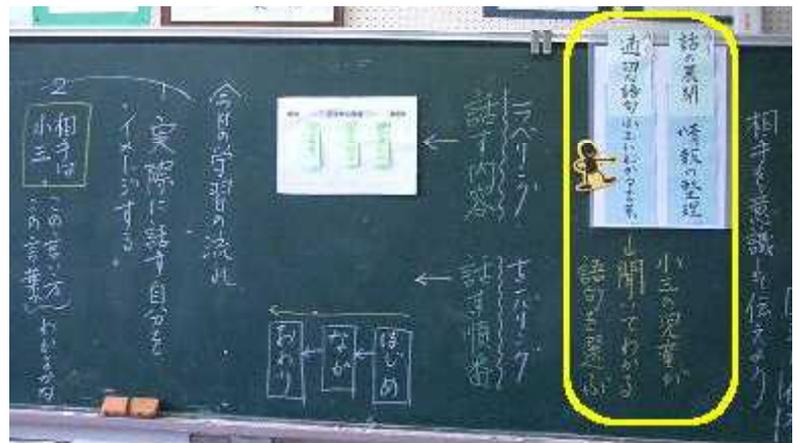
以上のことから、「学びの手引き」に診断Gの判断基準を示すことと、既習事項毎に評価結果を示すことにより、生徒に単元及び単位時間毎の目標を意識させながら学習に取り組ませる効果があると判断した。

【資料5 - 】生徒25の「学びの手引き」(部分その2)

解決の方法	診断テストの結果
<p>展開の工夫に力を入れよう (黄緑コース)</p> <p>相手に伝えるために必要な情報を整理して、どの順番で説明するかを考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要最小限の情報をだけを選ぶこと 説明の仕方を構想すること <p>「わかりやすい説明の手帳」を参考にしよう</p> <p>かみわり合いの表現 ナンバリングとラベリング 話の前後一語の現在地→まどぬ</p>	<p>【話の展開を工夫することができる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 加順にそって説明している ② 5文以内で説明している ③ 説明のポイントとなる地点を3箇所以内で示している (ただし、駅と博物館は除く) <p>Aイ(1)の力+よし! さんねん</p>
<p>語句の置き換えに力を入れよう (緑コース)</p> <p>相手の年齢から語句の理解状況を予測して、必要な場合は別の言葉や表現に置き換えてみよう</p> <p>(簡単な言葉 たとえによる説明 など)</p>	<p>【適切な語句を選ぶことができる】</p> <p>例 理髪店→美容院さん 製菓店→お菓子屋さん 書店→本屋さん</p> <p>Aウ(1)の力+よし! さんねん</p>



第5時のコース選択学習で説明の練習をしている生徒



第4時の板書内容(本時の目標がAウ 1 であることを示している)

5 診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項

診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項を明らかにするために、研究協力校の教師が授業実践を行った。さらに当センター研修講座の研修者を対象に同授業実践第2時の模擬授業を行い、つまずきへの対処方法について検討した。その結果、Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することと診断Gの評価結果を生かした指導についての留意事項が明らかになった。本節では、この二つの授業実践と診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項について述べる。

(1) 診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項を明らかにするための授業実践

診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項を明らかにするための授業実践について、研究協力校の教師による授業実践と、当センター研修講座の研修者を対象とした模擬授業の様子を述べる。

ア 研究協力校の教師による授業実践

研究協力校の教師が診断Gの評価結果を活用した授業実践を行った。対象は花巻市立宮野目中学校第2学年1学級(29名)で、光村図書第2学年「字のないはがき」を教材とした授業であった。本授業実践について、単元の指導計画の立案と診断Gの評価結果を生かした指導の概要を述べる(単元の指導計画, 診断G, 学習シート, 確認Gは補充資料31頁~40頁)。

(ア) 単元の指導計画の立案

単元の指導計画の立案を以下の手順で行った。

いわてスタンダードの中核となる力C工 1, C工 2, C工 3 及び言語事項(1)イを単元の目標として設定した。

単元の目標に到達するために必要な既習の中核となる力C工 1, C工 2 と対応したGアップシート読12を診断Gとして活用して診断的な評価を実施した。

診断Gの評価結果を【表7】のように分析し、既習の中核となる力C工 1, C工 2 について、学級全体の定着状況と生徒個々の学習上の課題を把握した。

上記で把握した課題を基に、次の三点に留意して指導内容を重点化した。

- ・特に学級全体への重点的な指導を必要とする力がC工 2 であること
- ・学級全体への指導について第1時, 第2時, 第5時で活用する学習シートを工夫すること
- ・個別指導については, C工 1 とC工 2 のつまずきが予測される生徒への指導の手だてを準備すること

指導の手だてとして、「学びの手引き」と、単位時間毎のつまずきの予測を記録した個別指導用の座席表を準備した。

単元の指導計画を立案した。

(イ) 診断Gの評価結果を生かした指導

診断Gの評価結果を生かした指導について、学習シートの作成とつまずきが予測される生徒への個別指導の状況を示す。

学習シートの作成

学習シートは次の三点に留意して作成した。

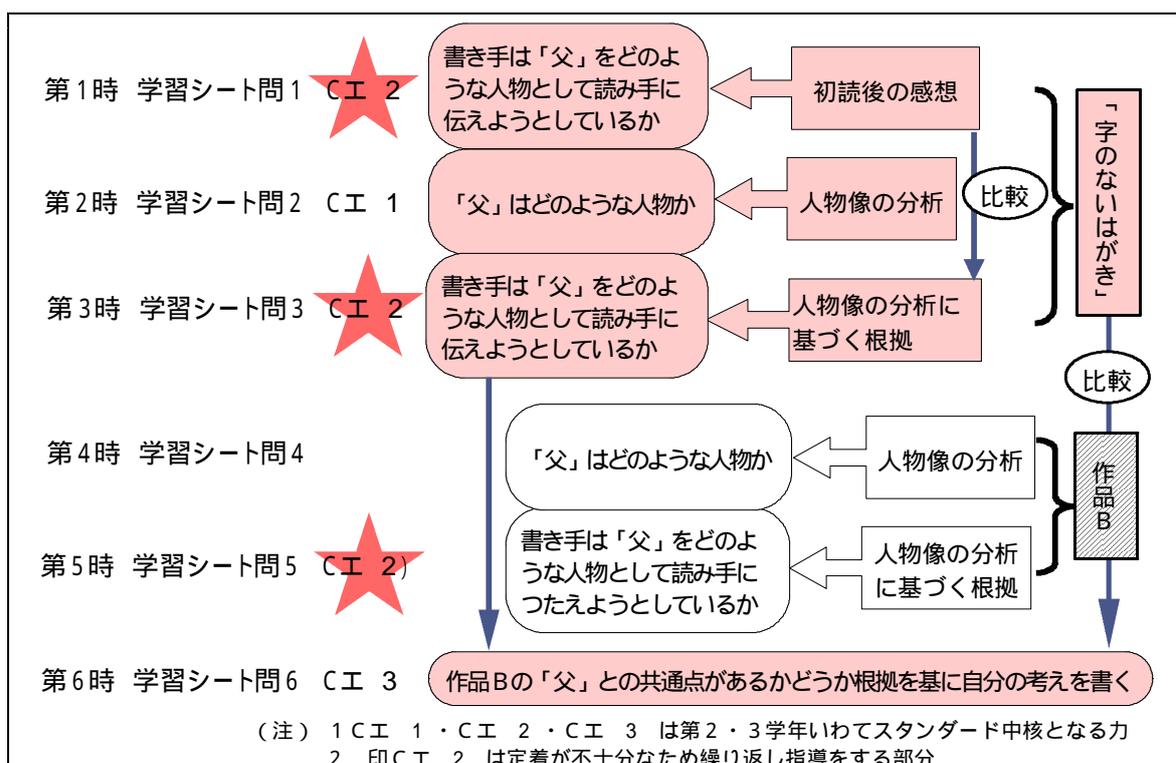
- ・一単位時間一課題とすること
- ・単位時間毎の学習内容と到達の姿が明確であること
- ・単位時間毎の学習内容を段階的に示すこと

【表7】診断Gの評価結果の分析

問	評価結果	指導時程
1	言イ 1 に関する課題であり、指導の視点を指導計画に示す。	
2	C工 1 【心情を考えることができる】について、つまずきが予測される生徒は6名である。「拍子抜け」の意味がわからないための誤答も考えられる。	
3	C工 1 【心情を考えることができる】について、つまずきが予測される生徒は12名である。この問題は問2のように言語知識の要素を含んでいない理由で妥当なデータである。したがって、C工 1 に関する診断は問3の評価結果のみを活用し、第2時・第4時の個別指導の手だてを構想する必要がある。	第2時 第4時
4	C工 2 【書き手の思いがわかる】について、つまずきが予測される生徒は25名である。主題をとらえる力についての全体的な指導が必要である。C工 2 は、本単元の目標C工 3 【書き手の思考や心情について自分の意見をもつことができる】への到達の前提となる力であるため、第1時・第2時・第5時の学級全体への指導の手だての充実が必要である。	第1時 第2時 第5時

(注) 1 表中の傍線部は予測したつまずきの状況
2 表中のマーカ部分はつまずきへの手だての構想

本単元の目標のC工 3「書き手の思いを理解し、それについて自分の意見をもつ」に到達するための前提となる力はC工 2「書き手の思考や心情を理解する」である。診断Gの評価結果から、学級全体がC工 2の定着状況に課題があると判断したため、【図5】のように第1時・第2時・第5時にC工 2に関わる指導を繰り返す構造の学習シートとした。本授業実践はC工 3に到達させるために、指導過程で作品Bを読ませることにより「父」の描き方について教材「字のないはがき」との共通点の有無を判断させる指導を段階的に構想したことも特徴的である。なお、作品Bは教材「字のないはがき」の筆者が「父」について書いた別の随筆である（向田邦子『父の詫び状』文春文庫pp.61-62）。このことは取組時はもとより単元終了後にも生徒には示さない。同一筆者だから共通点があるとせず、あくまで作品の記述内容に基づいて判断させることをねらったためである。



【図5】学習シートの構造図（教材「字のないはがき」）

つまずきが予測される生徒への個別指導の状況

つまずきが予測される生徒の個別指導として、学習内容の説明、学習シートへの記述に関する具体例の提示、生徒の質問に対する応答を机間指導により実施した。しかし、複数の生徒から学習への取組方法に関する質問がなされたために学習内容の補足説明を繰り返す必要があった。そのため、ねらいとしていたつまずきに対処するための個別指導の時間が十分に確保できないことがあった。

イ 研修者を対象とした模擬授業

当センター研修講座の研修者を対象に前項で示した研究協力校の教師による授業実践計画第2時の模擬授業を行った。以下は模擬授業の概要である。

本単元第2時の目標は、教材「字のないはがき」の「父」の心情や人柄について考えさせることである。「父」の心情や人柄が分かる行動や様子を基に人物像を分析させる過程でつまずきを予測した2名の生徒への個別指導の内容について検討した。ここでは、1名の生徒のつまずきにつ

いて検討した内容を説明する。

この生徒は「父」の心情や人柄が分かる行動や様子について付箋に書き出した後、分類・整理ができずにいた生徒である。【資料6】はこの生徒のつまずきに対処するための個別指導の内容について、研修者から挙げられたものである。本単元のねらいが「父」への書き手の思いについて自分の意見を持たせることであるので、「父」の人

【資料6】つまずきに対処するための個別指導の内容

- ・他人行儀，暴君，照れ性などの言葉の意味を調べさせ、良いイメージと悪いイメージ，知らない姿の三つに分類させる。
- ・分類の仕方が分からないようであれば，まず二つに分けてみようと促す。
- ・グループに分ける際は，難しければ「プラスかマイナスかどちらだと思うか」という視点を与える。
- ・どんな仲間のまとまりなのかたずねる。「これは仲間？」
- ・付箋に書き出した内容を分類させる。

(注)下線部は，分類・整理の視点を与える個別指導の内容

物像を分析させる過程で行動や様子について分類・整理の視点を与えずに生徒個々の視点に基づく読みをさせる必要があった。しかし，分類・整理の段階でのつまずきを予測したこの生徒に対しては，書き手が「父」について抱いている好意的な部分と好意的でない部分という視点を与えることで目標に到達させることができるのではないかという回答が多かった。

この模擬授業では，上述の生徒の他に別のつまずきが見られる生徒への個別指導についての検討も行った。その内容については省略するが，授業時に異なるつまずきが見られる複数の生徒に対処するためには，個々のつまずきに応じた個別指導の手だてを事前に準備する必要があるということが話題となった。

ウ 診断Gの評価結果を生かした指導に関するアンケート調査の結果

診断Gの評価結果を生かした指導に関するアンケート調査を研究協力校の教師及び研修者を対象として実施した(補充資料39頁・40頁)。その結果，Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することにより，単位時間毎に予測したつまずきに対処するための具体的な手だてを準備することができるという回答が多かった。しかし，実際の指導場面ではつまずきへの個別指導と一斉指導との兼ね合いと取組進度のばらつきへの対処に難しさがあるとの指摘がなされた。また授業実践を行った研究協力校の教師が，個別指導のための時間の確保と個別指導を要する生徒を学習目標に到達させるためのヒントの与え方に難しさを感じたことが分かった。

(2) 診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項

診断Gの評価結果を生かした指導に関する留意事項を明らかにするための授業実践及びアンケート調査(補充資料39頁・40頁)を基に，Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することと，診断Gの評価結果を生かした指導についての留意事項を以下に示す。

ア Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することについての留意事項

Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することについては有効であるというのが大方の意見であった。しかし，出題内容に診断したい既習の中核となる力以外の要素が含まれている場合にはシートの問題をそのまま活用できないとの指摘がなされた。これについては，本稿第4節で示した授業実践2のようにGアップシートを編集して活用することを勧める。また，診断的な評価のための判断基準をどのようにすればよいかとの指摘がなされた。授業者が指導のねらいに対応した判断基準を設定するためには，いわてスタンダードの中核となる力を基に，単元の目標及び単位時間毎の目標と診断しようとする既習の中核となる力との関連を整理する。その上で，生徒がどの時点でつまずく可能性があるのかを予測するための判断基準を設定することが必要である。

イ 診断Gの評価結果を生かした指導についての留意事項

事前につまづきを把握することにより生徒への有効なアドバイスが可能になるが、単位時間内に的確な個別指導をするためには、いく通りもの手だての準備が必要である。実際の指導場面での 学習目標に到達させるための指導上の工夫、個別指導のための時間確保、取組進度のばらつきへの対処をどのようにすればよいかとの指摘がなされた。

については、本研究における授業実践で示した「おたすけカード」のような役割を果たすものの活用が有効である。その内容は、補充資料に示したように、本文の読み取りを補助するためのものや、課題選択の手がかりを示すものなど、単元及び単位時間の目標に到達するための具体的なヒントを与えるものが望ましい。については、生徒への説明及び指示を的確にすることにより、その後の個別指導のための十分な時間確保が可能となる。具体例として、紙板書による説明のほか、右の写真のように、生徒の手元にある学習シートを拡大したものとカード（生徒がもっている付箋と同色）を用いることにより、短時間で明確な説明や指示をすることができる。については、到達状況に応じたコース別の学習シートや発展的な学習課題の準備をすることにより、すでに学習目標に到達した生徒に対処することができる。



学習シートを拡大して具体物の付箋を用いて説明している様子

6 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する研究全体の考察

評価に基づいた指導の充実を図り、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るためには、単元及び単位時間毎の目標を明確にし、指導に生きる評価を行う必要がある。本研究では、指導過程においてつまづきが予測される生徒に適切に対処するための方法として、Gアップシートを診断的な評価シートとして活用し、それに基づく手だての有効性を明らかにした。これにより、当センタープロジェクト班（2006）が作成した、いわてスタンダード及びGアップシートが確かな評価規準として活用できることが示唆された。さらに、本県の学力向上に関する基本的な考え方に示された授業改善の取組を具体化し、いわてスタンダード及びGアップシートの効果的な活用事例を示すことができた。

指導と評価の一体化を図る上で重要なのは次の二点である。第一に、教師と生徒が国語科が目指す力についての理解を共有することである。本研究では「学びの手引き」がこの役割を果たした。「学びの手引き」を作成して活用することにより、単元及び単位時間毎の目標を意識させながら学習に取り組みさせることと、国語科として身に付けさせたい力と単元の学習との結び付きを理解させる効果が明らかになった。このことから、単元の学習がどのような力を身に付けるためのものであり、何ができればよいのか、具体的な到達の姿が分かる「学びの手引き」のようなものを指導過程で活用することにより、指導と評価の一体化が図られると推察される。第二に、手だての必要性を十分に認識して指導をすることである。本研究で実施した二つの授業実践では、つまづきが予測される生徒への指導の手だてとして、診断Gの評価結果に基づいて作成した学習シートと「おたすけカード」の活用の効果が明らかになった。個に応じた指導の在り方として、教師が生徒個々の状況

に目を向けることは当然のことであり，その上で，より手厚い個別指導を必要としている生徒を見極めて対処することこそが個に応じることではないだろうか。生徒個々のつまづきをより細やかに予測して，それに対応した適切な指導をするために教師は多様な手だてを準備する必要がある。

本研究は，Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用が中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために有効であることを明らかにした。実際の授業では，診断Gの評価結果をどのように指導に生かすかが重要となる。診断はしたものの，その評価結果を指導に生かせなければ意味がない。国語科の指導事項について整理し単元の目標を精選する際には，いわてスタンダードの活用が有用である。指導の目標が明確であれば指導過程で予測されるつまづきへの対処が構造的なものとなる。つまづきに対処できる有効な手だてについての議論が今後は求められる。

研究のまとめ

この研究は，中学校国語科において，Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することをおして基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るものである。研究の成果と課題を整理してまとめとする。

1 研究の成果

(1) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方の検討

文献を基に，中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導改善の方向として，Gアップシートを診断的な評価シートとして活用することの意義と活用の仕方について明らかにした。これにより，中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導に関する基本的な考え方を検討し、基本構想を立案することができた。

(2) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けけた指導試案の作成

中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る指導についての基本構想の立案により，Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けけた指導試案を作成することができた。

(3) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けけた指導試案に基づいた授業実践計画と検証計画の立案

Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けけた指導試案に基づいて，診断Gの評価結果を生かした授業実践1とGアップシートの編集による活用と「学びの手引き」の改善に関する授業実践2の授業実践計画と検証計画を立案することができた。

(4) Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けけた指導試案に基づいた授業実践及び結果の分析と考察

Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けけた指導試案に基づいて，診断Gの評価結果を生かした授業実践1とGアップシートの編集による活用と「学びの手引き」の改善に関する授業実践2を行った。この二つの授業実践の分析と考察をおして，次の成果と課題を明らかにすることができた。

ア 授業実践の成果

- ・「学びの手引き」を作成して活用することにより，単元及び単位時間の目標を意識させながら学習に取り組ませることと，国語科として身に付けさせたい力と単元の学習との結び付きを理解させる効果を確認したこと

- ・つまずきが予測される生徒への指導の手だてとして、診断Gの評価結果を基に作成した学習シートと「おたすけカード」の活用による指導の効果を確認したこと

イ 授業実践の課題

- ・Gアップシートを診断Gとして活用する際に、どの時点でつまずく可能性があるか、段階的な診断ができない場合はGアップシートを編集する必要があること
- ・生徒個々のつまずきに、より細やかに対処するためには、多様な手だてを準備する必要があること

(5) 中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導についての研究のまとめ

Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置付けた指導試案に基づいた授業を行うことは、中学校国語科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る上で有効であり、中学校国語科における指導改善の方向を示すことができた。

2 今後の課題

今後は、いわてスタンダード及びGアップシートを活用した授業実践を基に、単元の評価規準及び単位時間の具体的評価規準を明確にした指導についてさらに検討を重ねることを課題とした。生徒のつまずきに対処し、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るためには、指導と評価が一体化された指導になお一層努めることが肝要だからである。

【おわりに】

この研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力校の先生方に心からお礼を申し上げます。

【引用文献】

- 尾木和英(2001),『評価で変わる国語の授業』,三省堂,p.78
 プロジェクト研究班(2006),「中学校国語科,数学科,英語科における学力向上を図るための研究-Gアップシートの作成をとおして-」,岩手県立総合教育センター,pp.4-5

【参考文献】

- 尾木和英(1999),『提言国語科授業改善十二章』,三省堂
 尾澤厚子他(2002),「児童生徒の資質や能力を高める指導と評価に関する研究」,岩手県立総合教育センター
 北尾倫彦(1986),『新しい評価観と学習評価』,図書文化
 倉澤栄吉・野地潤家(2004),『朝倉国語教育講座3話し言葉の教育』,朝倉書店
 高木一郎(1981),『到達度評価とその生かし方』,図書文化
 橋本重治(1983),『続・到達度評価の研究』,図書文化
 花田修一(1999),『「書くこと」の授業改革-情報化対応の作文技術-』,明治図書
 花田修一(2002),『「伝え合う力」とは何か-ある国語教室からの発信-』,三省堂
 花田修一(2003),『新授業づくり選書 中学校国語科絶対評価の方法と実際』,明治図書
 花田修一(2004),『絶対評価への挑戦 一時間位置目標の国語科授業を創る-指導と評価の一体化をめざして-』,明治図書
 花田修一(2005),『中学校新授業への挑戦1国語科指導と評価一体化の実際』,明治図書
 森敏昭・秋田喜代美(2000),『教育評価重要語300の基礎知識』,明治図書
 吉田辰雄(1985),『教育評価の倫理と実践』,福村出版

補充資料目次

1 診断Gの評価結果を生かした授業実践1の資料

書くこと「体験を伝え合おう」(第1学年)

単元の指導と評価の計画表	1
単位時間毎の指導計画表	2
「学びの手引き」	8
学習シート	9
「おたすけカード」	12
診断Gとして活用したGアップシート	13
確認Gとして活用したGアップシート	15

2 Gアップシートの編集と「学びの手引き」の改善に関する授業実践2の資料

話すこと・聞くこと「相手を意識して伝えよう - わかりやすく話す」(第3学年)

単元の指導と評価の計画表	16
単位時間毎の指導計画表	17
「学びの手引き」	22
学習シート	23
「おたすけカード」	26
診断Gとして活用したGアップシート	28
実演シートとして活用したGアップシート	29
確認Gとして活用したGアップシート	30

3 研究協力校の教諭による授業実践の資料

読むこと「字のないはがき」(第2学年)

単元の指導と評価の計画表	31
「学びの手引き」	32
学習シート	33
診断Gとして活用したGアップシート	36
確認Gとして活用したGアップシート	37

4 本研究についてのアンケート調査資料

診断Gの評価結果を生かした授業実践にかかわるアンケート調査の回答	38
Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用にかかわるアンケート調査の回答	39

単元の指導と評価の計画表 第1学年 書く 単元6教材名「体験を伝え合おう」(光村図書)

単元の目標		必要な材料を用いて自分の体験についてまとめ、進んで表現を工夫しようとする 自分の考えを相手に伝えるために必要な材料を選ぶ 段落の役割を考えて表現を工夫し、思いが伝わる文章にする			
指導計画(全6時間)		国語への関心・意欲・態度	中核となる力 *片仮名及び()内の数字は、わけてスタンダードの表記	診断Gによるつまずきの予想	
			書く能力	言語についての知識・理解・技能	
指導前	診断Gをする(書2 書11) 指導画を立案する	い わ ス タ ン ダ ー ド	伝えたい事実や事柄、話題、自分の考えや気持ちを整理することができる Bイ1 相手意識や目的意識を明確にして、適切な材料を選ぶことができる Bウ1 文や段落の長さ、文や段落の接続関係、全体と部分との関係などを整えることができる Bエ4 互いの文章の良さを発見し、自分の表現の参考にすることができる Bオ1	話や文章の中の段落の役割を考えて書くことができる 言(1)エ2	G書2ができない生徒 第1時・第2時・第3時でのつまずきが予測される G書11ができない生徒 第4時・第5時でのつまずきが予測される
第1時	伝えたい内容を考えさせる				
第2時	伝えるために必要な材料を集めさせる				
第3時	構成を考えながら材料を選ばせ、表現を工夫させる				
第4時	段落の役割を考えて文章を書かせる				
第5時	段落の役割を考えて全文体を整え清書させる				
第6時	体験を伝え合い、互いの文章の良さを参考にさせる	G	書2 材料を集めて伝えよう 問一【書くことする材料を集めることができる】 Bア2 問二【伝えたい内容を整理することができる】 Bイ1	書11 文章の書き出しを工夫しよう 問二【書き出しや結びの表現について考えることができる】 言(1)エ2	
指導後	確認Gを実施し、学習定着状況を確認する	Gアップシート			
単位時間ごとの計画		いわけてスタンダード Bの具体的な姿()			診断Gを生かした指導 十分満足 努力を要する
		国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能	
第1時	目標 相手を決めて伝えたい内容を考える 学習内容 誰に、何を伝えたいのかを明確にする	1 身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしていたり、書き表そうとしていたりしている 自分の体験の中から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしていたり、進んで書き表そうとしていたりしている ・取り組みの様子 ・学習シート ・学びの手引き	伝えたい事実や事柄、話題、自分の考えや気持ちを整理することができる Bイ1 学習シート1に伝えたい相手と伝えたい内容を具体的に書いている		学習シートの工夫 どんな人に伝えたいか どんなことを伝えたいか 課題に応じた個別指導 具体例を示す
第2時	目標 伝えるために必要な材料を集める 学習内容 材料となる具体的な事実と自分の考えを書き出す		伝えたい事実や事柄、話題、自分の考えや気持ちを整理することができる Bイ1 学習シート2に伝えたい内容を付箋を用いて書き出し、整理している		学習シートの工夫 比喩や引用などを用いた取り組み 「いつ・どこで・だれが・何を」の整理 「どう考えたか・なぜそう考えたか」の整理 課題に応じた個別指導 具体例を示す
第3時	目標 構成を考えながら材料を選び 表現を工夫する 学習内容 ・構成を考える ・材料を選ぶ ・書き出しや結びの文章を工夫する		相手意識や目的意識を明確にして、適切な材料を選ぶことができる Bウ1 学習シート2で整理した付箋を、構成を考えながら学習シート3に並べている 全体の構成を見直し、構成に用いた付箋に番号をつけている	話や文章の中の段落の役割を考えて書くことができる 言(1)エ2 全体の構成に調和するように書き出しの文章を工夫して書いている	学習シートの工夫 課題に応じた個別指導 比喩や引用などを用いた取り組み 課題に応じた個別指導 Gアップシート書11-1を例に示す
第4時	目標 段落の役割を考えて文章を書く (1/2) 学習内容 選んだ材料で文章を書く		伝えたい事実や事柄、話題、自分の考えや気持ちを整理することができる Bイ1 作文シートに学習シート3の文章構成を基に、話の進め方や段落の接続の仕方に飛躍や不自然さがないか気を付けて作文の下書きをしている	話や文章の中の段落の役割を考えて書くことができる 言(1)エ2 全体の構成に調和するように結びの文章や会話、比喩や引用などの文章を工夫して書いている	課題に応じた個別指導 比喩や引用などを用いた取り組み 話の展開の仕方や段落の接続関係が不自然でないか下書きの際のポイントの具体例を示す
第5時	目標 段落の役割を考えて文章を書く (2/2) 学習内容 構成や表現を見直しながら清書する		文や段落の長さ、文や段落の接続関係、全体と部分との関係などを整えることができる Bエ4 下書きの文章を基にして、文や段落の長さ、書き出しと結びの関係を見直しながら文章を書いている		課題に応じた個別指導 第4時の学習状況に応じて個別指導を要する生徒を把握し、机間指導により、文章の構成や表現について見直しの部分をしめす
第6時	目標 体験を伝え合い、互いの文章の良い点とを参考にさせる 学習内容 材料の選び方、構成、表現に着目し、参考にさせる		互いの文章の良さを発見し、自分の表現の参考にすることができる Bオ1 学習交流カードに参考にしたいところを書いている		学習コースの編成 第5時までの評価結果に応じて編成する
観点ごとの総括		国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能	評価に応じた指導
		B: 座席表や学習シート、「学びの手引き」で具体的な姿が把握できた生徒 A: 学習シートで発展的な学びや学びの確認できた生徒	C: Cがある B: すべてBまたはAとB A: すべてA	C: Cがある B: すべてBまたはAとB A: すべてA	達成できなかった生徒には、個別指導を行うが全体の2割以上がCの場合は補充指導を行う
個々へ知らせる方法		「学びの手引き」を活用する			

単位時間毎の指導計画表 1 / 6時間 単元六 教材名：「体験を伝え合おう」（中学校1年：光村図書）

目標		相手を決めて伝えたい内容を考える					
いわて スタン ダード	国語への関心・意欲・態度		書く能力		言語についての知識・理解・技能		
	身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、書き表そうとしたりしている		伝えたい事実や事柄、話題、自分の考えや気持ちを整理することができる Bイ1				
段階	時間	指導			評価		
		学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法	診断Gを生かした指導 十分満足 努力を要する
導 入	20分	1 ガイダンス ・単元の学習の確認 ・「学びの手引き」の説明 ・Gアップシートの返却と自己評価	・Gアップシートの診断結果を見ながら「学びの手引き」に記入する	・単元の学習の進め方について「作りたい料理」でイメージ化を図る ・G書2のみ返却する ・「学びの手引き」の配布			
	5分	2 本時の目標の確認	・学習シートで本時の目標を確認する	・学習シートの配布			
展 開	15分	3 学習活動 ・相手を決めて伝えたい内容を考える	・学習シート1に伝えたい相手と伝えたい内容を具体的に書く	・伝えようとするメッセージとそのことに関する自分の体験について考えながら、伝えたい相手と伝えようとする内容を書かせる	・どんな人に、どんなことを伝えたいか具体的に書いている	学習シート1	個別指導 具体例を示す ・どんな人に伝えたいか ・どんなことを伝えたいか 診断Gでつまずきを予測した生徒 2、4、6、15、22
	5分	4 学習状況の確認 5 次時の学習内容の確認 6 宿題の指示	・「学びの手引き」で本時の学習の振り返りをする	・「学びの手引き」上表の振り返りをさせて提出させる ・学習シートを提出させる ・G書2を回収する ・G書2でできなかった箇所についてもう一度取り組ませる（必要な生徒にのみ新しいシートを配布する）			本時の実現状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまずきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する

単位時間毎の指導計画表 2 / 6 時間 単元六 教材名：「体験を伝え合おう」（中学校1年：光村図書）

目標	伝えるために必要な材料を集める						
いわて スタン ダード	国語への関心・意欲・態度		書く能力		言語についての知識・理解・技能		
	身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしていたり、書き表そうとしていたりしている		伝えたい事実や事柄、話題、自分の考えや気持ちを整理することができる Bイ1				
段階	時間	指導			評価		
		学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法	診断Gを生かした指導 十分満足 努力を要する
導入	5分	1 本時の目標の確認 ・「学びの手引き」の活用 ・学習シート	・学習シートで本時の目標を確認する	・「学びの手引き」の返却 ・学習シートの返却			
	35分	2 学習活動 ・伝えるために必要な材料を集める	・学習シート2にメッセージを効果的に伝えるために必要な材料を書き出す	・材料となる具体的な事実と自分の考えを付箋を用いて書き出させる * 付箋は2色でそれぞれ大小2サイズ準備する * 付箋小は段落用、付箋大は書き出し、結び用とする。 * 黄色とピンクのうち、ピンクの方をチャレンジ用として活かせることで机間指導の際の見取りに役立つ	次の内容について書き出すことができる ・体験の内容(いつ・どこで・誰が・何を) ・体験を通して考えたこと ・なぜそう考えたか	学習シート2	学習シートの工夫 比喩や引用、関連する話題を書き出ださせる 個別指導 希望する生徒におたすけカードを与えて、どんな体験を伝えるか考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">診断Gでつまずきを予測した生徒 3、4、5、6、10、11、15、 20、22、23、25、26、29</div>
終末	10分	3 学習状況の確認 4 次時の学習内容の確認	・「学びの手引き」で本時の学習の振り返りをする	・「学びの手引き」上表の振り返りをさせて提出させる ・学習シートを提出させる			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">本時の実現状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまずきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する</div>

単位時間毎の指導計画表 3 / 6 時間 単元六 教材名：「体験を伝え合おう」（中学校1年：光村図書）

目標	構成を考えながら材料を選ぶ					
いわて	国語への関心・意欲・態度		書く能力		言語についての知識・理解・技能	
スタンダード	身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしていたり、書き表そうとしていたりしている		相手意識や目的意識を明確にして、適切な材料を選ぶことができる Bウ 1		話や文章の中の段落の役割を考えて書くことができる 言(1)エ 2	
段階	指導			評価		診断Gを生かした指導
時間	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法	十分満足 努力を要する
導入	1 本時の目標の確認 ・ Gアップシートの返却と自己評価 ・ 「学びの手引き」の活用 ・ 学習シート	・ Gアップシートの診断結果を見ながら「学びの手引き」に記入する ・ 学習シートで本時の目標を確認する	・ 「学びの手引き」の返却 ・ G書11を返却 ・ 学習シートの返却			
展開	2 学習活動 ・ 構成を考えて材料を並べる ・ 必要な材料を選ぶ ・ 段落の役割を考えながら表現を工夫する	・ 学習シート3に学習シート2で整理した付箋を用いて構成を考える ・ 全体の構成を見直し、必要があれば材料を追加したり削ったりする ・ 書き出し、結び、会話などの表現を考えて書く	学習シート3 - ab	ア学習シート2で整理した付箋を構成を考えながら並べている ア全体の構成を見直し、構成に用いた付箋に段落番号を付けている イ全体の構成に調和するように書き出しの文章を工夫して書いている	学習シート3 学習シート3 学習シート3	学習シートの工夫 比喩や引用、関連する話題について書かせる 個別指導 Gアップシート書11一例に示して書き出しの文章をまねさせる 診断Gでアのつまずきを予測した生徒 1、2、5、6、11、12、15、18、25、26、27、28 学習シートの評価から支援を要する生徒 (12、13、27、28) 診断Gでイのつまずきを予測した生徒 4、13、15、18、20、22、29 本時の実現状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまずきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する
終末	3 学習状況の確認 4 次時の学習内容の確認 5 宿題の指示	・ 「学びの手引き」で本時の学習の振り返りをする	・ 「学びの手引き」上表の振り返りをさせて提出させる ・ 学習シートを提出させる ・ G書11を回収する ・ G書11でできなかった箇所についてももう一度取り組ませる（必要な生徒にのみ新しいシートを配布する）			

単位時間毎の指導計画表 5 / 6 時間 単元六 教材名：「体験を伝え合おう」（中学校1年：光村図書）

目標		段落の役割を考えて文章を書く（2 / 2）					
いわて スタン ダード	国語への関心・意欲・態度		書く能力		言語についての知識・理解・技能		
	身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしたり、書き表そうとしたりしている		文や段落の長さ、文や段落の接続関係、全体と部分との関係などを整えることができる BE 4				
段階	時間	指導			評価		診断Gを生かした指導 十分満足 努力を要する
		学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法	
導入	5分	1 本時の目標の確認 ・「学びの手引き」の活用 ・学習シート ・作文シート	・学習シートで本時の目標を確認する	・「学びの手引き」の返却 ・学習シートの返却 ・作文シートの返却			
	40分	2 学習活動 ・構成や表現を見直ししながら清書する	・下書きの文章を基にして清書する		・文や段落の長さ、書き出しと結びの関係について下書きの文章に赤ペンで書き込みを入れ、を見直ししながら、清書している	作文シート1 作文シート2	課題に応じた個別指導 第4時の実現状況に応じて個別指導を要する生徒を把握し、机間指導により文章の構成や表現について見直しの部分を示す 個別指導を要する生徒 本時は対象なし
終末	5分	3 学習状況の確認 4 次時の学習内容の確認	・「学びの手引き」で本時の学習の振り返りをする	・「学びの手引き」上表の振り返りをさせて提出させる ・学習シートと作文シートを提出させる ・伝え合いの学習活動のためのグループ編成となることを伝える			

単位時間毎の指導計画表 6 / 6 時間 単元六 教材名：「体験を伝え合おう」（中学校1年：光村図書）

目標		体験を伝え合い、互いの文章の良い点を参考にする					
いわて		国語への関心・意欲・態度		書く能力		言語についての知識・理解・技能	
スタンダード		身近な生活から必要な材料を集めて、自分の考えをまとめようとしていたり、書き表そうとしていたりしている		互いの文章の良さを発見し、自分の表現の参考にすることができる		B才1	
段階	時間	指導			評価		診断Gを生かした指導 十分満足 努力を要する
		学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法	
導入	5分	1 本時の目標の確認 ・「学びの手引き」の活用 ・学習シート ・作文シート	・学習シートで本時の目標を確認する	・「学びの手引き」の返却 ・学習シートの返却 ・作文シートの返却			
		2 学習活動 ・交流学习をとおして材料の選び方、構成、表現に着目し、参考にする	・参考にさせたい作品を紹介する ・交流学习をとおして学び合う 付箋に記入する 自分の作文の工夫点 友達からの感想 先生からの評価	・「交流学习シート」の配布 書き出し名人 話題の整理名人 チャレンジモデル ・「交流学习カード」に3枚の付箋を貼る	・グループ内で作品を読み合い、材料の選び方、構成の仕方、書き出しや結び、比喩や引用などの表現に着目して参考にしたい点を学習交流カードに書いている	学習交流カード	学習コースの編成 個別指導を要する生徒 2、11、14、21、27、29 (作文を宿題で持ち帰った生徒)
展開	35分	3 学習状況の確認	・「学びの手引き」で本時の学習の振り返りをする	・「学びの手引き」上表の振り返りをさせる			
		4 単元の学習のまとめ	・「学びの手引き」で単元の学習の振り返りをする	・「学びの手引き」の「できましたか？」で単元の学習のふりかえりをさせる ・学習シートと作文シート、学習交流カードを提出させる			
終末	10分						

【学びの手引き】

単元6 「体験を伝え合おう」 P170～173

1年 組 番 氏名 _____

時	学習のめあて	振り返り	先生印
1	相手を決めて伝えたい内容を考える		
2	伝えるために必要な材料を集める		
3	構成を考えながら材料を選び表現を工夫する		
4	段落の役割を考えて文章を書く		
5	書いた文章を推敲し清書する		
6	体験を伝え合い良い点を参考にする		

*できた番号に色を塗りましょう

観点	学習目標	学習成果の確認	解決の方法	診断テストの結果
関意態	必要な材料を用いて自分の体験についてまとめ、進んで表現を工夫しようとする	自分の体験の中から必要な材料を集めて、自分の思いをまとめようとしたり、進んで表現を工夫しようとした		
書く力	自分の体験をとおして相手にアドバイスを伝えるために必要な材料を選ぶ Bイ Bウ Bエ Bオ	誰にどんなことを伝えるか決めることができた Bイ 1 伝えたい内容について材料を集めることができた Bイ 1 自分のアドバイスを伝えるために必要な材料を選ぶことができた Bウ 1 交流会を通して材料の集め方や表現の工夫について参考にすることができた Bオ 1 段落の役割や文と文の接続の仕方に気を付けて材料を集めたり選んだりして、文章を書くことができた Bエ 4	どう思うか、なぜそう思うか、例えばどんなときにそう思うか考えてみよう Bア 2	【診断G書2ー】 感じていることとそれに関係のある具体的な出来事について書き出すことができた Bア 2
			段落構成についてわからない人は、教科書p196を読もう 材料となる具体的な出来事を書かなかった人は、「いつ・どこで・どんなことがあった」について整理してみよう 自分の考えを書かなかった人は、「どう感じたか、なぜそう感じたか、どうあればよいのか」が整理してみよう Bア 3	【診断G書2二】 2段落構成で書くことができた 自分のが感じていることについての具体的な出来事を書くことができた 材料を選んで自分の考えを書くことができた Bア 3
言語の力	段落の役割を考え、思いが伝わる文章にする 言(1)エ	段落の役割を考えて、書き出しや結び、会話などを工夫することができた 言(1)エ 1	擬声語については教科書P185にあります。表現の効果の違いについては事実と意見を区別して読み比べてみよう Bエ 2	【診断G書11ー】 書き出しの表現の効果について考えることができた Bエ 2
			一のA～Dからひとつ選び、まねして書いてみよう Bエ 2	【診断G書11二】 読み手の興味を引く書き出しを工夫することができた Bエ 2

体験を伝え合おう

心に残るあの思い

一年

組

番号氏名

時	学習のめあて	学習のポイント
1	相手を決めて伝えたい内容を考える	誰に、何を伝えたいのかを明確にする
2	伝えるために必要な材料を集める	材料となる具体的な事実と自分の考えを書き出す
3	a 構成を考えて材料を並べる b 必要な材料を選ぶ	初め・中・終わりの内容を考えて材料を並べる 全体を構成してみて必要があれば材料を追加する
4	c 段落の役割を考えた文章を書く	書き出し 結び 会話 比喩 引用などを工夫する
5	書いた文章を推敲し清書する	話の展開の仕方や段落の接続関係に気を付けて書く 構成や表現を見直しながら清書する
6	体験を伝え合い良い点を参考にする	材料の選び方・構成・表現に着目し良い点を参考にする

1 相手を決めて伝えたい内容を考える

どんな人に伝えたいか

どんなことを伝えたいか



2 あなたのアドバイスを効果的に伝えるために必要な材料を集める

体験の内容のついでにだれが何を…)

黄色の付箋を貼りました

体験を通して考えたこと

黄色の付箋を貼りました

なぜそう考えたのか

黄色の付箋を貼りました

この体験を通してできるアドバイスは？

黄色の付箋を貼りました

どんな人に伝えたいか

黄色の付箋を貼りました

比喩や引用、関連する話題の挿入(チャレンジ)

ピンクの付箋を貼りました

3 a 構成を考えて材料を並べる
b 自分の考えを伝えるための材料を選ぶ

初め

中

終わり

c 段落の役割を考えを工夫して文章を書く
比喩や引用などの工夫（チャレンジ）

書き出し

黄色の付箋を貼りましょう

右の書き出しの文章の他に「」の中から表現を工夫
してみたいものを二つ選んで文章を書いてみよう。
「結び 会話 比喩 引用」

「 「

黄色の付箋を貼りましょう

の人はピンクの付箋を貼りましょう

「 「

黄色の付箋を貼りましょう

の人はピンクの付箋を貼りましょう

友達の文章に学ぶ

書き出し名人

みなさんは、何か悩んだことや困った
ことがありますか。そんな悩みをかかえ
ている人に伝えたいことがあります。

私は以前悩みごとがあつて、ねむれな
いことがありました。 後略

交流学习をしよう

あなたが書いた作文について、特に力を
入れた点はどこでしょうか。

黄色の付箋を貼る

あなたの作文のどんなところが良かつ
たか友達から感想を書いてもらいましょ
う。

黄色の付箋を貼る

話題の整理名人

前略 これは、僕が去年の秋ごろ、
ある書店で実際に思ったことです。まず
は、衝動買いをしてはいけない。二つ目
は、シリーズものを買うと読めなかつた
ときに損をする。 後略

チャレンジモデル

前略

あの有名な、イチロー選手や荒川静
香さんも、すごく努力してきたから
あのくらいの実力があるのだと思いま
す。

皆さんも何かがうまくなって試合に

あなたの作文のどんなところが良かつ
たか先生から評価をしてもらいましょ
う。

緑色の付箋を貼る

材料を集めて伝えよう

月 日 ()

一 「私の学級」というテーマで作文を書くとしたら、あなたはどのような内容で文章を書きますか。学級についてあなたが感じていることと、そう感じている理由としての具体的な出来事をそれぞれ箇条書きで三つメモしなさい。

【書くことする材料を集めることができる】

感じていること

Blank box for writing '感じていること' (Things I feel).

具体的な出来事

Blank box for writing '具体的な出来事' (Specific incidents).

二 一のメモの中から書くこととする材料を選んで、で囲み、次の条件に従って学級紹介の文章を書きなさい。なお、メモ中の材料をすべて用いて書く必要はありません。

【伝えたい内容を整理することができる】

一 段落構成とすること。

一 段落には、学級についてあなたが感じていることを具体的な出来事を示して書くこと。

二 段落には、一段落で書いたことについてのあなたの考えを書くこと。

Large empty box for writing the class introduction article.



文章の書き出しを工夫しよう

一 次の話の内容で作文を書くときに、読み手の興味を引くような書き出しの効果考えた場合、A～Dの書き出しの効果について当てはまるものをア～エから選び記号で答えなさい。

【文、段落、文章を整えることができる】

放課後、私が教卓に置かれていた習字を手にとって見ていると、そばを通りかかった由香が急にそれをうばい取るうとして破いてしまった。その習字は由香のものだったが、私に見られているのが恥ずかしくて、思わず手が伸びたのだった。習字を破ったのは由香本人だったのだが、私たちは先生に何も言わず教卓に置いたまま帰ってしまった。
翌日の朝の会で先生が破られた習字について話し始めたとき、私は罪悪感と緊張感とで心臓が張り裂けそうになり、すぐにすべてを先生に話すことにした。

A 私は先生の方をまともに見ることができなかった。心臓がドクンドクンと鳴っている。このまま黙ってはいけけない。私は卑怯者なんかじゃない。

B ビリビリ 無惨にも、半紙は十センチほどたてに破れてしまった。

C 「すごいね由香ちゃん、どうすればこんなに上手に書けるの」。私はその習字をもっとよく見たくて手にとった。すると、由香が突然私の手からそれをひったくろうとしたのだ。

D 放課後の教室には、私と由香の二人しかない。教卓の上のは、達筆な習字の作品が一枚。それはさつき由香が提出したものだ。

ア 擬声語を用いることにより、衝撃的な出来事を印象づけようとしている。

イ 出来事背景を丁寧に描写することで、自然に話を進めようとしている。

ウ 会話や語りかけを用いることで、その場面を生き生きと表現しようとしている。

エ 書き手の気持ちを直接的に書くことで、最も述べたいことを勢いよく表現しようとしている。

A	
B	
C	
D	

二 右のア～エのどれかを用いて、昨日の給食の様子を説明する作文の書き出しの文章を書きなさい。なお、文章の長さは自由です。

選んだ記号 ()



【文、段落、文章を整えることができる】

単元の指導と評価の計画表 第3学年 話す・聞く「相手を意識して伝えよう わかりやすく話す」

単元の目標		関	相手にわかりやすく伝えるために表現を工夫しようとする													
		話	・相手にわかりやすく伝えるために構成や展開工夫して話す													
		聞	・相手にわかりやすく伝えるために適切な語句を選んで話す													
		言	・相手にわかりやすく伝えるために話す速さ・声の大きさ・アクセント・間のとり方に注意して話す													
指導計画（全6時間）		国語への関心・意欲・態度	中核となる力 *片仮名及び()内の数字は、 いわてスタンダードの表記	言語についての知識・理解・技能	診断Gによるつまずきの予測											
指導前	診断Gを実施し、指導計画を立案する	い わ て ス タ ン ダ ー ド	広い範囲から話題を求め、表現を工夫して話そうしたり相手の立場や考えを尊重して的確に聞き取りをしたりするとともに、話し言葉を豊かにし言語生活を向上させようとしている	内容的に正確に伝えるために論理的な構成や展開を工夫することができる Aイ 1 Aウ 1	音声の働きや母音と子音、リズム、アクセントなどの仕組みについて感心を持ち、理解を深めることができる 言(1)ア 1	診断G Aイ 1 必要な情報と不必要な情報の選別ができない..第2時 説明の順番について、目的に応じて意図的に構想することができない..第4時										
第1時	相手にわかりやすく伝えるための方法を考えさせる															
第2時	説明するために必要な情報を整理させる															
第3時	説明の順番を決めさせて説明の仕方を構想させる															
第4時	説明するために必要な情報を基に効果的な順番で話させる															
第5時	確認Gを実施し、学習定着状況を確認する															
指導後		G ア ッ プ シ ー ト	話・聞(アレンジ版) 【話の展開を工夫することができる】 Aイ 1 【適切な語句を選ぶことができる】 Aウ 1		診断G Aウ 1 相手の年齢や理解状況について考えることができない..第3時 相手が理解できるように別の語句や表現に置き換えることができない..第3時											
単位時間ごとの指導計画		国語への関心・意欲・態度	い わ て ス タ ン ダ ー ド	Bの具体的な姿()	言語についての知識・理解・技能	診断Gを生かした指導 十分満足 努力を要する										
第1時	目標	相手にわかりやすく伝えるためにどのような工夫ができるか考えることができる 小学校3年生の児童の理解状況を具体的に予測しながら、語句や表現、話の順番について考えている ・学習シート ・取り組みの様子	聞いてわかる語句を選ぶことができる Aウ 1 教師による説明の実演を聞いて、語句や表現がわかりにくい語句を指摘し、教師の実演原稿をもとに、わかりやすい表現や語句の置き換えをしている ・学習シート(実演原稿)			個別指導(おたすけカード) わかりにくい語句や表現とわかりやすい語句や表現の具体例を比較させて気付かせる										
	学習内容						相手にわかりやすく伝えるための方法を考える									
第2時	目標						聞いてわかる語句を選ぶことができる Aウ 1 相手にわかりやすく伝えるために必要な最小限の情報だけを選んでいる ・学習シート				個別指導(おたすけカード) 教材文の「纏」の説明文を次の手順のように整理させる 「纏」に關係する語句に赤ペンで線を引かせる 同じ内容の語句を分類し別色のペンで囲ませる 繰り返し出てくる表現等に気付かせて、必要な情報の絞込みくおさせる					
	学習内容											説明するために必要な情報を整理する				
第3時	目標											聞いてわかる語句を選ぶことができる Aウ 1 選んだ情報について、相手の理解状況を予測しながら、語句や表現の置き換えをしている ・学習シート				個別指導(おたすけカード) 小学校3年生の児童の理解状況に応じた語句や表現の置き換えの具体例を示す
	学習内容															
第4時	目標	内容的に正確に伝えるために論理的な構成や展開を工夫することができる Aイ 1 効果的な説明の順番を選び、説明メモを作ることができる 例 全体 部分 部分 全体 原因 結果 結果 原因 結論 説明 説明 結論 ・学習シート(説明メモ)				個別指導(おたすけカード) 説明のパターンを簡単な例文で示し、その中から自分で活用してみたいものを選ばせる。その後、説明のパターンをまねさせながら説明メモをつくらせる 学習シートの工夫 複数のパターンの説明メモを作らせてわかりやすさの比較をさせる										
	学習内容															
第5時・第6時	目標						聞いてわかる語句を選ぶことができる Aウ 1 内容的に正確に伝えるために論理的な構成や展開を工夫することができる Aイ 1 説明メモの内容をもとに、次の3点に留意して話すことができる 相手の理解状況の予測に基づいた語句や表現の置き換え 効果的な説明のために構想した説明の順番 メモは簡潔書きとし、文章による発表原稿とはしない ・学習シート(説明メモ) ・話している様子	音声の働きや母音と子音、リズム、アクセントなどの仕組みについて感心を持ち、理解を深めることができる 言(1)ア 1 次の3点に留意して話すことができる 相手が聞き取れる速さ 相手に聞こえる声の大きさ 強調する部分の工夫			学習コースの編成(練習会) 説明メモをもとに、短い文で順序立て話すための原稿を書かせて練習させる 話すときの速さ、声の大きさ、強調の仕方について、グループ学習の中で他の生徒の様子を参考にさせたり、教師の実演をまねさせたりする					
	学習内容															
												学 習 の 総 括				
観点ごとの総括												国語への 関心・意欲・態度	話 す ・ 聞 く 能 力	言語についての知識・理解・技能	評価に応じた指導	
		A: 学習シートで発展的な学びや学びが確認できた生徒 B: 座席表や学習シート、「学びの手引き」で具体的な姿が把握できた生徒	A: すべてA B: すべてBまたはAとB C: Cがある	A: すべてA B: すべてBまたはAとB C: Cがある	達成できなかった生徒には、個別指導を行うが全体の2割以上がCの場合は補充指導を行う											
個々へ知らせる方法		「学びの手引き」を活用する														

単位時間毎の指導計画表 1 / 6時間 話す・聞く 教材名：「相手を意識して伝えよう」（中学校3年：光村図書）

目標		相手にわかりやすく伝えるための方法を考える																																			
いわて スタン ダード	国語への関心・意欲・態度		話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能																																	
	相手にわかりやすく伝えるために表現を工夫しようとする		内容を的確に伝えるために論理的な構成や展開を工夫することができる AI 1																																		
段階	時間	指導			評価		診断Gを生かした指導																														
		学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法	十分満足	努力を要する																													
導入 展開 終末	5分	1 単元の学習の確認 (1)単元の目標 (2)本時の学習内容	単元の目標及び本時の学習内容を知る	教科書 p34～35を読み、単元の学習内容を示す																																	
	20分	2 学習活動 本時の目標 相手にわかりやすく伝えるための方法を考える	教師の目的地までの道順を説明する実演を聞いて、なぜわかりにくいのか考える	実演原稿を基に次の点に気が付かせる ・文や文章が長い ・右左の指示が多い ・ポイント地点が多すぎる ・工事中の説明は不要 ・理髪店、製菓店、書店の語句の言い換えが必要	実演原稿を基に、次の点でわかりにくいことを指摘できる ・文や文章が長いこと ・右左の指示が多いこと ・ポイント地点が多すぎる ・工事中の説明は不要 ・理髪店、製菓店、書店の語句の言い換えが必要であること AIとAウに関する内容の記述ができる	実演シート	個別指導 「おたすけカード」を与えて、説明のわかりやすさの特徴に気付かせる 診断Gでつまずきを予測した生徒 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>30</td><td>25</td><td>20</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td></tr> <tr><td>29</td><td>24</td><td>19</td><td>14</td><td>9</td><td>4</td></tr> <tr><td>28</td><td>23</td><td>18</td><td>13</td><td>8</td><td>3</td></tr> <tr><td>27</td><td>22</td><td>17</td><td>12</td><td>7</td><td>2</td></tr> <tr><td>26</td><td>21</td><td>16</td><td>11</td><td>6</td><td>1</td></tr> </table>	30	25	20	15	10	5	29	24	19	14	9	4	28	23	18	13	8	3	27	22	17	12	7	2	26	21	16	11	6	1
		30	25	20	15	10	5																														
29	24	19	14	9	4																																
28	23	18	13	8	3																																
27	22	17	12	7	2																																
26	21	16	11	6	1																																
20分	3 学習課題の確認 診断Gに基づく「学びの手引き」による学習課題の確認	わかりやすく伝えるための方法を確認する 診断Gの評価結果を「学びの手引き」に記入し、自分の学習上の課題を確認する	「学びの手引き」の配布（裏面に解答例） 診断Gの返却				本時の実現状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまずきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する																														
5分	4 本時の振り返り 5 次時の学習内容の確認	本時の学習内容を振り返り、「学びの手引き」に記入する 次時の学習内容を知る	「学びの手引き」への記入 ・「学びの手引き」の回収 ・実演シートの回収																																		

単位時間毎の指導計画表 2 / 6 時間 話す・聞く 教材名：「相手を意識して伝えよう」（中学校3年：光村図書）

目標		相手にわかりやすく伝えるための方法を考える						
いわて スタン ダード	国語への関心・意欲・態度		話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能				
	相手にわかりやすく伝えるために表現を工夫しようとする		内容を的確に伝えるために論理的な構成や展開を工夫することができる	AI 1				
段階	時間	指導			評価		診断Gを生かした指導	
		学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法	十分満足	努力を要する
導入	5分	1 本時の学習内容の確認 (1)前時の学習内容の振り返り (2)本時の学習内容の確認	本時の学習内容を知る	「学びの手引き」の返却 単元の目標の提示(ボード)				
	10分	2 学習活動 その1 ・「纏」の説明文の音読	教科書の「纏」の解説文を音読する	・学習シート1の配布 ・指名して読ませる ・「纏」の写真を見せる			個別指導 「纏」の説明文の内容について どんなことが書かれていたのか 読み取るためのおたすけカード を与える	
		3 学習活動 その2 本時の目標 説明のしかたを構想する	学習シート1「わかりやすい説明の条件」の説明を聞く	表現の工夫 かかわり合いの表現 ナンバリング ラベリング 展開や構成の工夫 話の全体像 話の現在地 まとめ	次の4点について学習シート1に書くことができる	学習シート2		診断Gでつまずきを予測した生徒
30分			学習シート1に取り組む	・聞き手とのかかわり合いの表現をどうするか選ぶ ・相手が知りたい情報について2～3つ示す(例) いつ・なぜ いつ・だれが・なぜ どんな・なぜ ・「纏」についてどの順番で説明するか番号を付ける ・どんな資料を提示するか			学習シートによる指示 自作の資料提示を構想させる	
展開		4 本時の振り返り	本時の学習内容を振り返り、「学びの手引き」に記入する	「学びの手引き」への記入				
	5分	5 次時の学習内容の確認	次時の学習内容を知る	・「学びの手引き」の回収 ・学習シート1の回収				本時の実現状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまずきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する

30	25	20	15	10	5
29	24	19	14	9	4
28	23	18	13	8	3
27	22	17	12	7	2
26	21	16	11	6	1

単位時間ごとの指導計画表 3 / 6時間 話す・聞く 教材名：「相手を意識して伝えよう」（中学校3年：光村図書）

目標		相手にわかりやすく伝えるための方法を考える																																		
いわて スタン ダード	国語への関心・意欲・態度		話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能																																
	相手にわかりやすく伝えるために表現を工夫しようとする		内容を的確に伝えるために論理的な構成や展開を工夫することができる AI 1																																	
段階	時間	指 導		評 価	診断Gを生かした指導																															
		学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法	十分満足 努力を要する																													
導 入	5分	1 本時の学習内容の確認 (1)前時の学習内容の振り返り (2)本時の学習内容の確認	本時の学習内容を知る	・「学びの手引き」の返却 ・学習シート1の返却																																
	展 開	10分	2 学習活動 その1 説明するための情報の整理の仕方の確認	教師の説明を聞いて、説明するための情報の整理の仕方を知る	説明ボードの提示 表現の工夫かかわり合いの表現 ナンバリング ラベリング 構成や展開の工夫 話の全体像 話の現在地 まとめ			個別指導 机間指導の際に以下の指導をする ・学習シート1の取組をもとにナンバリングとラベリングをさせる ・ラベリングで示したことについて、「纏」の解説文から、具体的な説明箇所を読み取らせ、サイドラインを引かせる ・説明のための必要最小限の情報を選び、別な色のサイドラインを引かせたのち、説明する内容を整理させる																												
		30分	3 学習活動 その2 本時の目標 説明するために必要な情報を整理する	学習シート2に取り組む本時の学習内容を振り返り、「学びの手引き」に記入する 次時の学習内容を知る	・学習シート2の配布 ・付箋の配布 ピンク...かかわりの表現 緑色...ナンバリング ラベリング 黄色...説明する内容	次の2点について付箋を用いて学習シート2に整理することができる ・表現の工夫 ・構成や展開の工夫	学習シート2	診断Gでつまづきを予測した生徒 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>30</td><td>25</td><td>20</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td></tr> <tr><td>29</td><td>24</td><td>19</td><td>14</td><td>9</td><td>4</td></tr> <tr><td>28</td><td>23</td><td>18</td><td>13</td><td>8</td><td>3</td></tr> <tr><td>27</td><td>22</td><td>17</td><td>12</td><td>7</td><td>2</td></tr> <tr><td>26</td><td>21</td><td>16</td><td>11</td><td>6</td><td>1</td></tr> </table>	30	25	20	15	10	5	29	24	19	14	9	4	28	23	18	13	8	3	27	22	17	12	7	2	26	21	16	11
30	25	20	15	10	5																															
29	24	19	14	9	4																															
28	23	18	13	8	3																															
27	22	17	12	7	2																															
26	21	16	11	6	1																															
終 末	5分	4 本時の振り返り 5 次時の学習内容の確認		「学びの手引き」への記入 ・「学びの手引き」の回収 ・学習シート2の回収			本時の実現状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまづきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する																													

単位時間ごとの指導計画表 4 / 6時間 話す・聞く 教材名：「相手を意識して伝えよう」 (中学校3年：光村図書)

目標		相手にわかりやすく伝えるための方法を考える																																		
いわて スタン ダード	国語への関心・意欲・態度		話す・聞く能力		言語についての知識・理解・技能																															
	相手にわかりやすく伝えるために表現を工夫しようとする		聞いてわかる語句を選ぶことができる		Aウ 1																															
段階	時間	指 導			評 価																															
		学習内容	生徒の活動	指導上の留意点	Bの具体的な姿	評価方法																														
展 開	5分	1 本時の学習内容の確認 (1)前時の学習内容の振り返り (2)本時の学習内容の確認	本時の学習内容を知る	・「学びの手引き」の返却 ・学習シート2の返却																																
	10分	2 学習活動 その1 小学校3年生の児童の理解状況の予測		参考資料の提示																																
展 開	25分	3 学習活動 その2 本時の目標 説明するために、必要な情報を整理する	学習シート2に取り 組む		参考資料を基に小学校3年生の児童の理解状況を予測して伝えようとする内容にかかわる語句や表現の置き換えをすることができる	学習シート2																														
	10分	4 本時の振り返り 5 次時の学習内容の確認 6 次時の学習コースの選択	本時の学習内容を振り返り、「学びの手引き」に記入する 次時の学習内容を知る 「学びの手引き」をもとに次時の学習コースを選択する	「学びの手引き」への記入 ・「学びの手引き」の回収 ・学習シート2の回収																																
		診断Gを生かした指導 十分満足 努力を要する																																		
		個別指導 机間指導の際に以下の指導をする ・第3時にサイドラインを引かせた部分について、わかりやすい語句や表現の置き換え方の例を具体的に示す																																		
		診断Gでつまずきを予測した生徒 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <tr><td>30</td><td>25</td><td>20</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td></tr> <tr><td>29</td><td>24</td><td>19</td><td>14</td><td>9</td><td>4</td></tr> <tr><td>28</td><td>23</td><td>18</td><td>13</td><td>8</td><td>3</td></tr> <tr><td>27</td><td>22</td><td>17</td><td>12</td><td>7</td><td>2</td></tr> <tr><td>26</td><td>21</td><td>16</td><td>11</td><td>6</td><td>1</td></tr> </table>					30	25	20	15	10	5	29	24	19	14	9	4	28	23	18	13	8	3	27	22	17	12	7	2	26	21	16	11	6	1
30	25	20	15	10	5																															
29	24	19	14	9	4																															
28	23	18	13	8	3																															
27	22	17	12	7	2																															
26	21	16	11	6	1																															
		本時の実現状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまずきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する																																		

目標		相手にわかりやすく伝えるための方法を考える																																	
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能																															
いわて スタン ダード		相手にわかりやすく伝えるために表現を工夫しようとする	内容を的確に伝えるために論理的な構成や展開を工夫することができる	音声の働きや母音と子音、リズム、アクセントなどの仕組みについて感心をもち、理解を深めることができる																															
			聞いてわかる語句を選ぶことができる		言(1)ア 1																														
段階	時間	学習内容	指導 生徒の活動	指導上の留意点	評価 Bの具体的な姿	評価方法	診断Gを生かした指導 十分満足 努力を要する																												
導 入	10分	1 本時の学習内容の確認 (1)前時の学習内容の振り返り (2)本時の学習内容の確認	本時の学習内容を知る	・「学びの手引き」の配布 ・学習シート2の返却 展開の工夫強化コース 語句の置き換え強化コース 診断Gの評価結果から、より強化したいコースを選択させる																															
		2 学習活動 学習のめあて 効果的な順番と言葉と音声で話す	各コースについて、次の点に留意して重点的な練習をする	同コースでペア練習をさせて、以下の点を確認させる 表現の工夫 かかわり合いの表現 ナンバリング ラベリング 構成や展開の工夫 話の全体像 話の現在地 まとめ	学習シート2の説明メモをもとに、以下の3点の工夫が教師に明確に伝わるように話すことができる	学習シート2 実演の様子	学習コース 診断Gでつまずきを予測した生徒 <table border="1" data-bbox="1680 734 1982 901"> <tr><td>30</td><td>25</td><td>20</td><td>15</td><td>10</td><td>5</td></tr> <tr><td>29</td><td>24</td><td>19</td><td>14</td><td>9</td><td>4</td></tr> <tr><td>28</td><td>23</td><td>18</td><td>13</td><td>8</td><td>3</td></tr> <tr><td>27</td><td>22</td><td>17</td><td>12</td><td>7</td><td>2</td></tr> <tr><td>26</td><td>21</td><td>16</td><td>11</td><td>6</td><td>1</td></tr> </table>	30	25	20	15	10	5	29	24	19	14	9	4	28	23	18	13	8	3	27	22	17	12	7	2	26	21	16	11
30	25	20	15	10	5																														
29	24	19	14	9	4																														
28	23	18	13	8	3																														
27	22	17	12	7	2																														
26	21	16	11	6	1																														
展 開	60分	(1)説明の練習 ・コース別練習 ・話し方練習	展開の工夫強化コース 表現の工夫と構成や展開の工夫をしながら話せるか	もとの言葉 置き換えた言葉 聞き手にわかりやすいか?	・展開の工夫																														
		(2)説明の実演(評価)	語句の置き換え強化コース 聞き手が理解できる言葉に置き換えて話せるか 次の3点に留意して話す 速さ 声の大きさ 強調部分の工夫 表情 間のととり方 アクセント 意図的な緩急の差	聞き取れる早さか? 相手に聞こえる声か? 強調部分がわかるか?	・語句の置き換えの工夫 ・適正な音声言語表現		本時の実現状況を確認する。 診断Gによるもの以外につまずきが予測される生徒についても把握し、次時の指導の手だてを準備する																												
終 末	30分	3単元の学習成果の確認 確認Gによる振り返り	確認Gに取り組む	確認Gの配布																															

【学びの手引き】

話す・聞く「相手を意識して伝えよう」 わかりやすく話す（P34～38）

3年 組 番 氏名 _____

時	学習のめあて	振り返り	先生印
1	わかりやすく伝えるための方法を考える		
2	説明の仕方を構想する		
3	情報を正確に把握し、説明するために必要な情報を整理する		
4	情報を正確に把握し、説明するために必要な情報を整理する		
5	実際に話すことで学習成果を確認する		
6	実際に話すことで学習成果を確認する		

* できた番号に色を塗りましょう

観点	学習目標	学習成果の確認	解決の方法	診断テストの結果
関意態	相手にわかりやすく伝えるために表現を工夫しようとする	相手にわかりやすく伝えるためにどのような工夫ができるか考えることができた チャレンジ学習への取り組みをした		
話す・聞く力	相手にわかりやすく伝えるために構成や展開を工夫して話す	「わかりやすい説明の条件」にしたがって情報を整理することができた 相手にわかりやすく伝えるために必要な情報を選ぶことができた 次の点に注意して話すことができた かかわり合いの表現を入れている ナンバリングとラベリングをしている 話の全体像 現在地 まとめている 自作の資料を提示してわかりやすい説明の工夫をした Aイ 1	展開の工夫に力を入れよう 展開コース 相手に伝えるために必要な情報を整理して、どの順番で説明するかを考えよう ・必要最小限の情報をだけを選ぶこと ・説明の仕方を構想すること 「わかりやすい説明の条件」を参考にしよう かかわり合いの表現 ナンバリングとラベリング 話の全体像 話の現在地 まとめ	【話の展開を工夫することができる】 ・道順にそって説明している ・5文以内で説明している ・説明のポイントとなる地点を3箇所以内で示している (ただし、駅と博物館は除く) Aイ 1 の力...よし!・ざんねん
	相手にわかりやすく伝えるために適切な語句を選んで話す	相手にわかる語句を選ぶことができた 次の点に注意して話すことができた 小学校3年生の児童が聞いてわかる語句や表現に置き換えている Aウ 1	語句の置き換えに力を入れよう 語句コース 相手の年齢から語句の理解状況を予測して、必要な場合は別の言葉や表現に置き換えてみよう (簡単な言葉 たとえによる説明など)	【適切な語句を選ぶことができる】 例 理髪店 床屋さん 製菓店 お菓子屋さん 書店 本屋さん Aウ 1 の力...よし!・ざんねん
言語の力	相手にわかりやすく伝えるために話す速さ・声の大きさ・アクセント・間のとり方に注意して話す 1年言ア及び2・3年言ア	次の点に注意して話すことができた 相手が聞き取れる速さであること 相手に聞こえる声の大きさであること 間のとり方を工夫すること 意図的な緩急の差や表情の変化をつけて話した 1年言ア及び2・3年言ア		

印はチャレンジ学習の成果

【学習シート1】
相手を意識して伝えよう
わかりやすく話す

三年 組 番 氏名

時	学習のめあて	学習のポイント
1	わかりやすく伝えるための方法を考える	わかりやすく伝えるための工夫を考える
2	説明の仕方を構想する	「わかりやす説明の条件」にしたがって整理する
3	情報を正確に把握し必要な情報を整理する	相手に必要な情報を選ぶ
4	情報を正確に把握し必要な情報を整理する	小学3年生が聞いてわかる語句を選ぶ
5	実際に話すことで学習成果を確認する	「わかりやすい説明の条件」にしたがって話す 小学3年生が聞いてわかる語句で話す 話す速さ・声の大きさ・強調に注意して話す
6		

説明のもとになる資料

注 く は「学びの手引き『学習の成果』」と対応する

光村図書平成十八年度版中学校国語3

「相手を意識して伝えよう」『纏』について「三五～三六ページ

相手を意識して伝えよう

わかりやすく話す

三年 組 番 氏名

6	5	4	3	2	1	時
実際に話すことで学習成果を確認する		情報を正確に把握し必要な情報を整理する	情報を正確に把握し必要な情報を整理する	説明の仕方を構想する	わかりやすく伝えるための方法を考える	学習のめあて
「学びの手引き」で学習成果の確認をする		相手に必要な情報を選ぶ	相手に必要な情報を選ぶ	「わかりやすく説明の条件」にしたがって整理する	わかりやすく伝えるための工夫を考える	学習のポイント
		小学3年生が聞いてわかる語句を選ぶ	小学3年生が聞いてわかる語句を選ぶ			

注 〽 は「学びの手引き」学習の成果「」と対応する

まとめ	伝えたい内容	話の全体像	
			付箋を用いて話の構成と展開を考える
			わかる語句に直す

黄色の付箋...説明する内容
ラベリングで示したことについての具体的な説明を簡条書きでメモしよう。

緑色の付箋...ナンバリングとラベリング
ナンバリング：話の内容を番号づけして整理する
「第一に...」「初めに...」「次に...」
ラベリング：話のポイントを短い言葉で示す
「第一に、Aの使い方を説明します。」

ピンクの付箋...かかわりの表現
呼びかけ 質問 ゲーム クイズ
質問への答え お願い 指示
あいさつ

おたすけカード を見ながら考えよう！

光村図書平成十八年度版中学校国語3

「相手を意識して伝えよう」「纏」について「三五」「三六」ページ

この学習補助シートの説明

シートの特徴
・漢字に読み仮名を付けた
・「おたすけカード」と対応する内容をマークで示した
活用の対象となる生徒
「おたすけカード」には、本文の内容と関係のないものが含まれている。その無関係の情報の識別ができない生徒にこのシートを活用させることにより、本文の読み取りをさせる。

第一時で活用した「おたすけカード」

(注) 二九頁の「実演シート」への取組過程でつまずいている生徒に活用させた。「ヒントが必要な人は参考にして下さい。」と説明して全員に配布した。

おたすけカード

同じ内容について、次のように説明をしたら児童にはだいたい伝わりました。
ふたつの原稿を比べながら、考えてみましょう。

駅前の角に床屋さんがあるので、そこを左に曲がってください。次の角も左に曲がってください。銀行があるので、その角を右に曲がってまっすぐ行くと博物館です。床屋さんから博物館まで左左右の順に角を曲がれば着きます。



第二時で活用した「おたすけカード」

(注) 説明する内容を決める過程で、本文の正しい読み取りができていないためにつまずいている生徒に活用させた。「ヒントが必要な人は参考にして下さい。」と説明して全員に配布した。

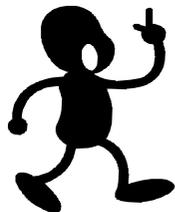
おたすけカード



聞き手が知りたいこと

- ・「纏」はいつの時代の道具なの？
- ・「纏」はどのように使ったの？
- ・「纏」ってなに？
- ・「纏」はどのように作るの？
- ・「纏」はどんなかたちをしているの？
- ・「纏」はどんな人が使っていたの？
- ・「纏」はどうして必要だったの？
- ・「纏」にはどんな役割があったの？
- ・「纏」の大きさは？
- ・「纏」の重さは？

解説文に書いていないことは
選べないよ!



第三時で活用した「おたすけカード」

(注) かかり合いの表現を構想する過程で、話し方について具体的にイメージができない生徒に活用させた。「ヒントが必要な人は参考にして下さい。」と説明して全員に配布した。

おたすけカード

かかわり合いの表現ってどんな表現だろう？



呼びかけ	「ちゃん。」「ねえ。」「さあ、しょうよ。」
質問・クイズ	「それでは質問です。」「くを知っていますか。」
お願い	「よく聞いてね。」
指示	「こちらを見てください。」「わかった人は手を挙げてください。」「
感謝	「一生懸命聞いてくれてありがとうございます。」「
あいさつ	「こんにちは。」「さようなら。」「

説得力のある表現をしよう

月 日 ()

一 小学三年生の児童に、駅から博物館までの道順を聞かれました。左の地図をもとに実際に児童に話すつもりで説明する内容の文章を書きなさい。
 なお、説明する際には次の点に注意すること。
 児童には左の地図を見せることはせずに言葉だけで道順を説明すること。

【話の展開を工夫することができる】

児童にわかるような言葉で説明すること。

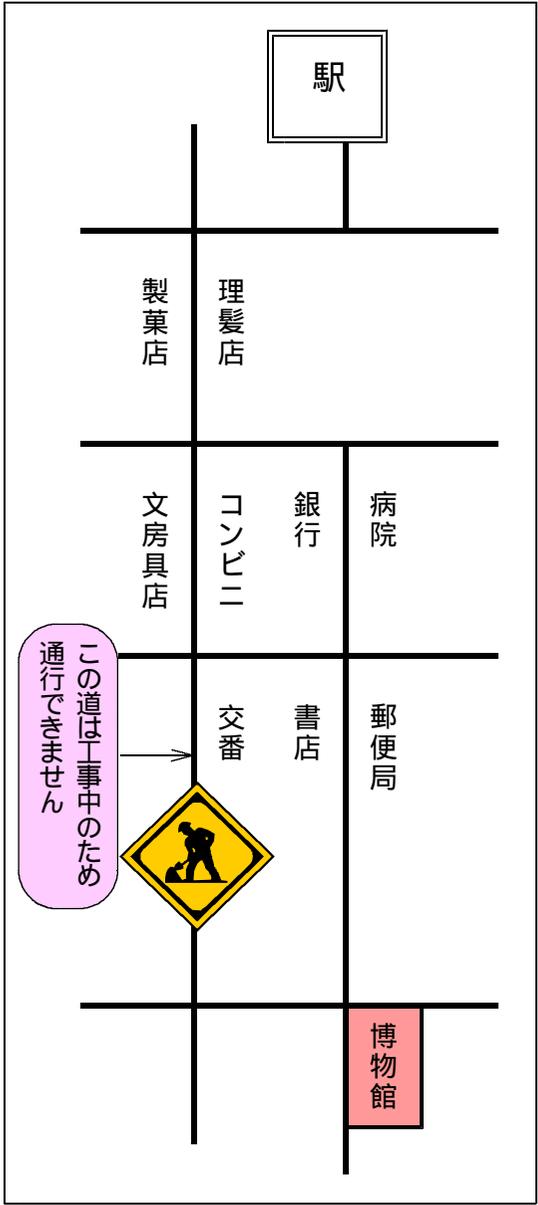
【適切な語句を選ぶことができる】

解答例 1
 駅前の道を右に曲がると床屋さんがあります。床屋さんを左に曲がってまっすぐ行くと二つ目の交差点に交番があります。交番の前を通って行くと交差点があるのでそこを右に曲がってまっすぐ行くと博物館に着きます。わからないときには交番で聞いてください。

解答例 2
 駅前の道を右に曲がると床屋さんがあります。床さんの角を左に曲がってまっすぐ行くと二つ目の交差点に交番があります。そこでもう一度博物館までの道を聞いてみてください。

解答例 3
 駅前の道を右に曲がると床屋さんがあります。床さんの角を左に曲がってまっすぐ行くとコンビニがあるので、その前を通って行きます。次の角に銀行があるのでそこを右に曲がってまっすぐ行くと博物館に着きます。

説明のもとになる周辺地図



【実演シート】「相手を意識して伝えよう わかりやすく話す」

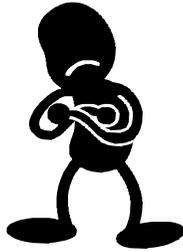
三年 組 番 氏名

小学校3年生の児童に、駅から博物館までの道順を聞かれたので、次のように説明したところ、聞き手の児童には、ほとんど内容が伝わらない様子でした。この説明のどこがいけなかったのでしょうか。実演原稿をもとに、その理由を考えなさい。

実演原稿

駅前の道をまっすぐ行ってすぐに右に曲がると理髪店と製菓店のある交差点があるのでそこをまっすぐに駅と反対方向に歩いてください。次の交差点には左にコンビニ、右に文房具店があります。そこも通りすぎて更に次の交差点の左側に交番があります。そのまままっすぐに行くと工事のため通行できないので、交番の角を左に曲がって行くと書店と郵便局の交差点があるので、そこを右に曲がってまっすぐ行くと次の交差点の角に博物館があります。

どうして 伝わらないの？



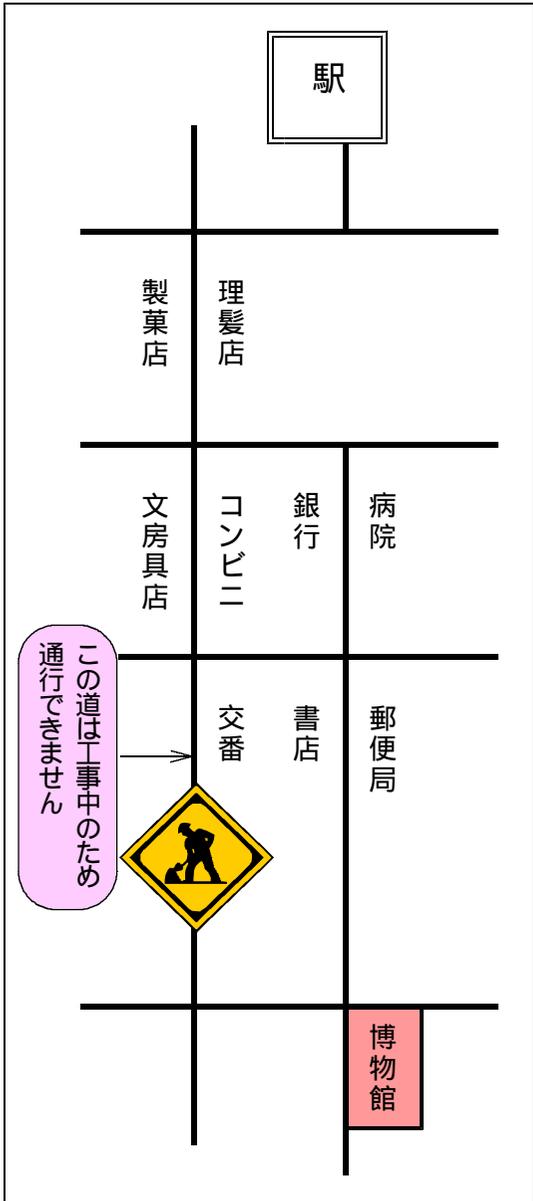
伝わらない理由を箇条書きで書きなさい。



解答例

- ・小学校3年生の子どもには、理髪店や製菓店という言葉が分かりにくいから
- ・右や左の指示が多くて複雑だから
- ・説明が長すぎるから
- ・道路工事の説明のように unnecessary 内容が多いから

説明のもとになる周辺地図



説得力のある表現をしよう

一 小学三年生の児童に、駅から博物館までの道順を聞かれました。左の地図をもとに実際に児童に話すつもりで説明する内容の文章を書きなさい。

なお、説明する際には次の点に注意すること。

児童には左の地図を見せることはせずに言葉だけで道順を説明すること。

【話の展開を工夫することができる】

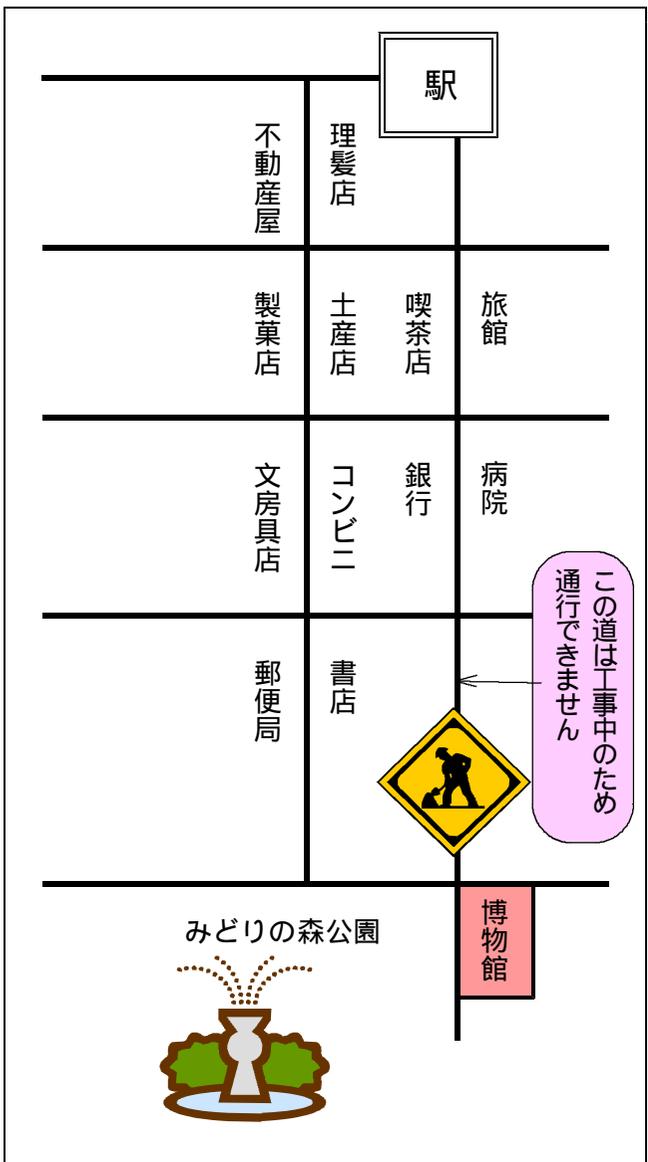
児童にわかるような言葉で説明すること。

【適切な語句を選ぶことができる】

解答例

駅前の床屋さんの角を曲がってまっすぐ行くと突き当たりにみどりの森公園があります。そこを左に進むと博物館です。

説明のもとになる周辺地図



単元の指導と評価の計画表 第2学年 単元3人間のきずな「字のないはがき」

単元の目標		関読書をととして自分の意見をもち、自己を豊かにしようとする 読書き手の思いを理解し、それについて自分の意見をもつ 言語 語句の意味を理解して読む				
指導計画(全6時間)		国語への関心・意欲・態度 中核となる力 *片仮名及び()内の数字は、いわてスタンダードの表記	読む能力 言語についての知識・理解・技能	診断Gによるつまずきの予測		
指導前	診断Gを実施し、指導計画立案する	いわスタンダード Gアップシート	読書を生活に役立て自己を豊かにしようとしている	心情や状況・情景を考慮することができる C.E 1	慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味をあらわす語句の意味や用法に注意して読み、抽象的な概念などを表す多様な語句を理解することができる 言(1)イ1	問2・問3× 第2時と第4時
第1時	父親への書き手の思いをとらえる		書き手の思考や心情を理解することができる C.E 2	問2・問3 【心情を考慮することができる】 C.E 1	問1 【語句の意味を理解することができる】 言(1)イ1	問4× 第1時と第3時、第5時
第2時	父親の心情や人柄を理解する		書き手の思考や心情について、自分の意見をもつことができる C.E 3	問4 【書き手の思いがわかる】 C.E 2		
第3時	父親への書き手の思いをとらえる					
第4時	父親への書き手の思いについて、自分の意見をもつ					
第5時	確認Gを実施する					
第6時	学習成果を確認する					
単位時間ごとの指導計画		いわてスタンダード Bの具体的な姿()			診断Gを生かした指導	
目標	学習内容	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	十分満足 努力を要する	
第1時	父親への書き手の思いをとらえる ・診断Gの返却 ・初読 ・書き手の思いを理解する	読書を生活に役立て自己を豊かにしようとしている 父親人物の心情や書き手の思いを理解し、自分の意見をもつことができる 【学習シート1】 【学習シート2】 取組の様子	書き手の思考や心情を理解することができる C.E 2	語句の意味を理解することができる 言(1)イ1	父親の行動や様子に注目させて、本文にマーカーで印をつけさせる 具体例をいくつか示す ・罵声 ・げんごつ ・礼儀正しい	
第2時	父親の心情や人柄を考慮する ・父親の心情や人柄について読み取る ・父親の心情や人柄について分析する		心情や状況・情景を考慮することができる C.E 1	語句の意味を理解することができる 言(1)イ1	付箋の分類の仕方について、次のような例を示して分類させる ・優しい父親 ・乱暴な父親 ・どちらでもない父親	
第3時	父親への書き手の思いをとらえる ・文章から読み取った根拠をもとに、書き手の思いについてまとめる		書き手の思考や心情を理解することができる C.E 2	父親の心情や人柄がわかる行動や様子を表す表現を付箋に書き出している 付箋に書き出したものを分類・整理して父親の人物像を分析している 【学習シート1】の2	次言葉の意味を理解している 威厳 暴君 罵声 手をあげる おびたしい	前時の分類結果の分析の仕方について、次のような例を示して分析の仕方を示す ・山が一番多い付箋はどれか ・類似した表現があるか
第4時	父親への書き手の思いについて、自分の意見をもつ ・作品Bをもとに比べ読みをする ・二つの文章を比較することで父親への書き手の思いについての自分の意見を述べる		書き手の思考や心情について、自分の意見をもつことができる C.E 3	父親の人物像について、第2時の分析結果をもとに自分の考えを書いている 【学習シート1】の3	筆まめ おおぶりの筆 きちようめんな筆	学習シート3の記述内容を基に、次の点に留意させて学習シート4に記述させる ・一文目に二つの作品の共通点の有無を書かせる ・共通点の有無の根拠を、作品Bの分類に基づく分析により記述させる 例) なぜならば、作品Bに『...』という部分があり、これは、『字のないはがき』の父親の～の言動と同じだからだ。
第5時	父親への書き手の思いについて意見交流をする ・確認Gを実施する ・単元の学習成果を確認する			父親の人物像の伝え方について2つの作品に共通点があるかどうか、根拠をもとに自分の考えを書いている 【学習シート1】の4		
第6時						
学習の総括						
観点ごとの総括		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能	評価に応じた指導	
		A: 学習シートで発展的な学びが確認できた生徒 B: 座席表や学習シート、「学びの手引き」で具体的な姿が把握できた生徒	A: すべてA B: すべてBまたはAとB C: Cがある	A: すべてA B: すべてBまたはAとB C: Cがある	達成できなかった生徒には、個別指導を行うが全体の2割以上がCの場合は補充指導を行う	
個々へ知らせる方法		「学びの手引き」を活用する				

【学びの手引き】

文章を読んで自分の意見をもとう 「字のないはがき」 (P90~94)

2年 組 番 氏名 _____

時	学習のめあて	振り返り	先生印
1	父親への書き手の思いをとらえる		
2	父親の心情や人柄を理解する		
3	父親への書き手の思いをとらえる		
4	父親への書き手の思いについて自分の意見をもつ		
5	父親への書き手の思いについて意見交流をする		
6	単元の学習成果を確認する		

*できた番号に色を塗りましょう

観点	学習目標	学習成果の確認	解決の方法	診断テストの結果
関意態	読書をとおして自分の意見を持ち、自己を豊かにしようとする	登場人物の心情や書き手の思いを理解し自分の意見をもつことができた		
読む力	書き手の思いを理解し、それについて自分の意見をもつ	登場人物の心情の根拠を示すことができた	登場人物の心情を考えよう ・登場人物の心情や人柄がわかる行動や様子を抜き出すこと ・登場人物の心情や人柄がわかる行動や様子について抜き出したものを同種ごとに整理すること	【心情を考えることができる】 問2 登場人物の心情の根拠を示すことができる 問3 登場人物の心情を理解することができる CⅡ 1 の力...よし!・ざんねん
		登場人物の心情を理解することができた		
		書き手の思いをとらえることができた	登場人物についての書き手の思いを考えよう ・登場人物の心情や人柄について、書き手がどのような見方をしているか根拠を示して説明すること	【書き手の思いがわかる】 問4 書き手の思いをとらえることができる CⅡ 2 の力...よし!・ざんねん
		書き手の思いについて自分の意見をもつことができた		
言語の力	語句の意味を理解して読む	語句の意味を理解して文章を読むことができた	語句の意味を理解しよう ・その語句の前後にある言葉や表現から意味を推測してみること ・国語辞典で調べて確かめること	【語句の意味を理解することができる】 問1 「拍子抜けする言葉」について理解している 言(1)イの力...よし!・ざんねん

生徒の記述内容

文章を読んで自分の意見をもとう
「字のないはがき」

二年 組 番氏名

時	学習のめあて
1	父親への書き手の思いをとらえる その1
2	父親の心情や人柄を理解する
3	父親への書き手の思いをとらえる その2
4	父親への書き手の思いについて自分の意見をもつ
5	父親への書き手の思いについて意見交流をする
6	単元の学習成果を確認する



1 書き手はこの父親をどのような人物として読み手に伝えようとしているか、初読後のあなたの考えを書きなさい。

書き手は父親を

感情の起伏が激しい

人物として読み手に伝えようとしている。

3 書き手はこの父親をどのような人物として読み手に伝えようとしているか、2の分析結果をもとにあなたの考えを書きなさい。

書き手は父親を

家族への愛情にあふれた

人物として読み手に伝えようとしている。

なぜならば 家族に手をあげたり、かんしゃくをおこしたりする暴君のような父の姿を書いているものの、手紙を通して知った父の優しさを「威厳と愛情に満ちた父の姿」という言葉で表現しているからだ。また、この文章は二つのエピソードで構成されていて、後半のエピソードの方では、好ましくない父の姿は一つもなく、家族への愛情を感じさせる行動だけが書かれているからだ。

* マーカー部分が分析に基づく根拠

4 「字のないはがき」と作品Bを比較して読み、次のことについてのあなたの考えを書きなさい。
書き手が読み手に伝えようとしている父親の人物像について、二つの作品に共通点があるかどうか、根拠を示して説明すること。

共通点はある。私はその根拠を次のように考えた。
作品Bの父親像を分析すると、家での暴君のような嫌な姿と、社長の前で見せた卑屈な姿だけが描かれていない。しかし、「私達に見せないとこで、父はこの姿で戦ってきたのだ。父だけ夜のおかずが一品多いことも、……八つ当たりの感じてとんできたげんこつもゆるそうと思った。」という表現がある。「ゆるそうと思った」とは、社長の前での卑屈な父のお辞儀を見て、家族のために一生懸命働いている父を理解したということだと思う。したがって、作品Bの父親も「字のないはがき」と同様に家族への愛情にあふれた人物として書き手が伝えようとしたのだと思う。

* マーカー部分が分析に基づく根拠

エピソード1 (黄の付箋)

- げんこつ
- ばかやろつ
- 大酒飲み
- かんしゃく
- ふんどし
- 暴君
- 手をあげる

家で見た父の好ましくないところ

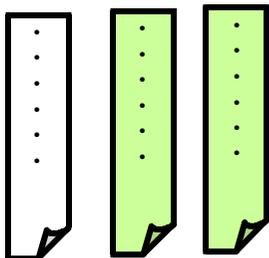
エピソード2 (青の付箋)

- はだして表へ飛び出した
- 肩を抱いて…
- 声をあげて泣いた
- おびたしいはがき
- (かぼちゃ) しかない

家で見た父の良いところ

- 威厳
- 愛情
- 非の打ちところがない
- 筆まめ
- 照れ性
- 他人行儀
- 保険会社の支店長
- きちよつめんな筆

家では見ない父の姿



右の付箋の内容を分類・整理して父親の人物像を分析しなさい。

【学習シート2】

文章を読んで自分の意見をもとう

「字のないはがき」

二年 組 番氏名

時	学 習 の め あ て
1	父親への書き手の思いをとらえる その1
2	父親の心情や人柄を理解する
3	父親への書き手の思いをとらえる その2
4	父親への書き手の思いについて自分の意見をもつ
5	父親への書き手の思いについて意見交流をする
6	単元の学習成果を確認する

作品 B



著作権法により本文の掲載不可

【出典】 向田邦子（一九八一）『父の詫び状』文春文庫 六一～六一ページ

作品 B の父親の心情や人柄がわかる行動や様子を表す表現を付箋に簡潔にメモしなさい。

文学的文章を読もう

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

それから、二人は小さなたき火を前に、にぎり飯をほおぼった。

向かい合う二人。

言葉にできぬ安心感と言葉にできぬ緊張感。

二人は男どうし、親子とはいえ、照れ臭さのようなものを感じていた。

「なあ。」

「うん。」

「高校行かないんだって？」

いきなりの問いかけに、サトシの顔が少しこわばった。だが、サトシは、平静をよそおってこう言った。

「まあね……。」

「そうか。」

サトシは、吾郎の拍子抜けする言葉に戸惑った。頭ごなしに反対されると思い込んでいたからだ。

「反対しないのか？」

「反対してほしいのか？」

「……。」

吾郎には吾郎の考えがあった。サトシの本音を聞いてみたいと思ったのだ。親が子どもの本音を聞く機会などはほとんどない。少し、楽しみでもあった。

(中略)

「じゃあ、やり方を変えよう。」

「やり方？」

「ああ、ルアーがだめなら思い切って、えさ釣りにしよう。それもちよっと変わったやり方だ。やり方はいろいろある。」

(やり方はいろいろある……)

サトシは、おもしろそうだな思いながら、吾郎の背中を見つめた。

「あのポイントは遠いから、おれのさおでは届かない。だから、リールつきのおまえのさおを使う。フロートイングルアーはそのままにして、針のついた糸をメートル結びことにしよう。針につけるえさは、おれがさつき釣ったウグイ。どうだ、これで完成だ。ルアーと生き餌の合体だぞ。」

それは、実におもしろいしかけだった。サトシのやっていたルアーフィッシングとも、吾郎のやっていたえさ釣りとも違うやり方。サトシは、こんなやり方があるのかと感心した。

「へへっ、邪道って言うな。オリジナリティーがあると言え。主流であるかないかなんて、たいした問題じゃない。」

月 日 ()

「主流であるかないか？」
「みんながやっているか、やってないかだけの問題だ。そんなこと言ったら、高校へ行かないのも邪道だって言われるぞ。」
(阿部夏丸「父のようににはなりたくない」より)
東京書籍 H 18 二年

問一 線部 とは、どの言葉か、抜き出して書きなさい。
【心情を考えることができる】

[]

問二 線部 なぜサトシは拍子抜けしたのか、その理由を、文章中から抜き出して書きなさい。
【心情を考えることができる】

[]

問三 吾郎の釣りのやり方に対するサトシの気持ちが、いくつか書かれています。二つ抜き出して書きなさい。
【心情を考えることができる】

[]

問四 この文章の主題を次のようにまとめました。空欄に当てはまる言葉を書き入れなさい。
【書き手の思いがわかる】

() について悩み始め、高校へは
いかないと考えていた () のかた
くなだった気持ちだが、() と二人で
() にでかけ、父と () し
たことをきっかけに、解きほぐされていく様
子を描いている。

かたくな…意地をはって自分の考えをまったく変えないようす。

診断Gの評価結果を生かした授業実践にかかわるアンケート調査

調査年月日 平成19年9月25日(火)

調査対象 花巻市立宮野目中学校の教師(1名)

調査方法 アンケート調査(記述及び聞き取り)

今回はGアップシートの診断的な評価シートとしての活用を位置づけた授業を実践していただきました。これにより、本研究がほかの多くの教師にとって「使える商品」であるかどうかという視点で先生のご意見を伺いたいと存じます。以下の点についてのご意見を参考に研究の成果及び今後に向けた課題をまとめたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

Q1 Gアップシートを活用した診断的な評価の実施と活用

単位時間ごとにつまずきが予測される生徒の把握と手だてを準備するために診断G(診断的な評価シートとして活用したGアップシート)を他の教師が実施する場合、どのような点に難しさを感じていますか。

回答内容

単元に入る前の事前アンケートなり、導入なりに代われるものとしては弱点の把握には有効。ただ、その問題だから出さなかったという場合も想定され(他の要素が含まれる場合)診断Gをどの程度重視するのかその基準をはっきりさせる必要があると思われる。

Q2 診断Gの評価結果を生かした指導

(1) 本研究では診断Gの評価結果を生かした指導をするために「学びの手引き」を作成して活用しました。「学びの手引き」は、診断Gの評価結果を生かした指導をする上で必要なものであるということが本研究の提案です。他の教師が「学びの手引き」を作成し活用する場合、どのような点に難しさを感じていますか。

回答内容

本来的に「学びの手引き」の手順で指導をしていくべきだが、一から作成するとなると様式に工夫が必要。文言を変えるだけですぐに活用できる汎用性に乏しい。

(2) 診断Gの評価結果をもとに単位時間毎につまずきが予測される生徒への個別指導の手だてを準備することが本研究の提案です。今回の授業実践で、指導の効果が感じられた点は何でしょうか。

回答内容

診断Gの評価結果に基づき、単位時間毎のつまずきを予測した。実際のつまずきへの対処は単位時間毎の学習シートの到達状況を基に行ったが、診断Gの評価結果を起点として、生徒の学習到達状況の変容を記録・分析することにより、指導の手だてを具体化することができた。

(3) 診断Gの評価結果をもとに単位時間毎につまずきが予測される生徒への個別指導の手だてを準備することが本研究の提案です。先生ご自身が難しさを感じたのはどれですか。(複数選択可)

ア 意図的な机間指導をする場合の留意点

イ 学習内容を理解させるための方法

ウ 学習活動に取り組ませるための方法

エ 学習目標に到達させるためのヒントの与え方

オ 個別指導のための時間の確保

カ 取組進度のばらつきへの対処(発展的な学習の準備)

Gアップシートの診断的な評価シートとしての活用にかかわるアンケート調査

調査年月日 平成19年9月21日(金)

調査対象 中学校教職経験者5年研修講座研修者(5名)

調査方法 アンケート調査(記述)

Q1 診断的な評価シートとしてGアップシートを活用することについて

- ・目標が明確化し、生徒も授業でつきたい力、向かう到達点が示されることで、より取り組む意欲が出ると思われます。そのためには、教師が授業の組み立てを考慮して活用しなければいけないと思います。
- ・非常に有効だと思います。準備の段階で「学びの手引き」等あれくらいしっかりとなされてなおかつつまずきを予測できていること。生徒の意欲・学力が確実に高まると思います。
- ・有効だと考えます。教材が異なっても、学んだことを活用できて初めて身に付いたと判断できると思うからです。
- ・授業でつけさせたい力をはっきりさせるために有効であると考えます。力のある生徒にとっては、学習の見通しを持つこともできるのではないかと思います。
- ・生徒を診断する上でGアップシートは領域や目標が明確化されおり、大変活用しやすいのではないかと思います。有効な個別指導を行う上でも事前の準備は大変重要だと感じるが、その診断や準備にどれほどの労力が要するのかを考えると、果たして現在の自分の実力で活用しきれぬのが大きな課題である。

Q2 単位時間のつまずきを予測することにより、具体的な個別指導の手だてを準備することについて

- ・事前に把握することで、Cの子にも有効なアドバイスや声かけが可能になります。準備することの大切さはそのとおりで、C、Aレベル双方に対処できるよう努力したいと思います。
- ・質問1と同様に、あらかじめつまずきを予測しているので、授業に入っても手だてがいろいろ考えられて非常に有効だと思います。
- ・必要だと思います。つまずきが多い生徒ほど、指導のポイントやタイミングを逃すと、修正するのに倍以上の時間を要すると考えるからです。
- ・一人一人に対する個別指導の手だてを準備するのは大変だが、ある程度のパターンを準備するようになりたいと思った。今まではB～Aの生徒を中心に授業を考えていたが、多くの生徒がBになれるようにしたい。
- ・今までの個別指導では、その場でしか対処できない不十分なものであったが、今回の講義と演習で、事前の予測によるアプローチの仕方の引き出しをたくさん持っていなければいけないのだとわかった。つまずきを予測するためには何が必要なのかを考えると、生徒をどのようにさせたいかを明確に定めることが必要なのかととらえました。全ての時間で細かく実践することに難しさを感じるので、どの場面で取り入れるかという見極めも必要なのでしょうか。

Q3 単位時間においてつまずいている生徒が何人もいる場合、他生徒の取り組み進度のばらつきへの対処や一斉指導との兼ね合いをどうするかが難しい点です。どのような工夫が考えられますか？

- ・取組が終了した生徒への指示(発展)を出しておく必要があると思います。つまずいている生徒に対しては一つの指示を出して次の生徒へ、全員まわって時間次第で再びまわるようにします。
- ・共通しているつまずきについては、その生徒達に一斉に指示を行う。つまずいている生徒のプライドを傷つけないようにするという点と、全体で再度確認する意味で、全体への声のかけ方を工夫する。
- ・本日お話を伺った羽柴先生のような事前の準備と授業の中での効率のよい机間指導がとても参考になりました。改めて考えてみると難しすぎて言葉がすぐに見つかりません。Aコース、Bコースといったプリントを準備したり、発展的な問題を考えていきたい。
- ・「つまずき」は誰にでもあるし、起こりうることだと考えて、それを課題に授業を進める方法もとれるのではないかと考えた。個の問題を全体で考える、ただ最後には全体で取り組める問題、ここまでは達成してほしいという課題を一斉に行ったほうが良いと思う。

4 その他(疑問な点等あれば...)

(回答無し)